

「須坂学園構想 基本方針（案）」に対する意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

須坂市では、「須坂学園構想 基本方針（案）」の策定にあたり、須坂市市民参加と協働のまちづくり条例（パブリックコメント手続）に基づき、市民の皆様からご意見を募集しました。

このたび、皆様からお寄せいただいたご意見の概要と、これに対する市（教育委員会）の考え方を、次のとおり取りまとめましたので公表します。

ご意見をお寄せいただきました皆様に、心から御礼申し上げます。

なお、いただいたご意見は「須坂学園構想 基本方針」の策定にあたっての参考とさせていただきます。

お寄せいただいたご意見に対して、個別の回答は行いませんので、あらかじめご了承ください。

また、内容が同趣旨のご意見は、要約してまとめさせていただきました。

■ 意見募集の概要

項 目	内 容
案件名	須坂学園構想 基本方針（案）
意見募集期間	2026 年 6 月 1 日（月）～ 2026 年 6 月 30 日（火）
資料の公表方法	広報 6 月号及び全戸配布、市ホームページ 等
提出方法	意見箱・郵送・E メール・QR コードによるオンライン提出
対象	市内在住・在勤・在学の方等
意見件数	91 人から計 298 件

■ ご意見と市（教育委員会）の考え方

いただいたご意見は、内容ごとに分類し、市（教育委員会）の考え方とあわせて次のとおり掲載します（意見の趣旨を損なわない範囲で、要約・整理して掲載しています）。

目 次

1. 構想の進め方・策定プロセスについて.....	1
(1) 早期実現・推進に関するご意見.....	1
(2) 丁寧な合意形成を求めるご意見.....	2
(3) 策定プロセスの透明性・住民参加へのご意見.....	2
(4) 意見募集の方法へのご意見.....	3
2. 須坂市がめざす小中一貫教育（教育内容・カリキュラム）について.....	5
(1) 教科担任制に対するご意見.....	5
(2) 教科担任制・教員配置に関するご意見.....	5
(3) グローバルスタディ・英語学習へのご意見.....	6
(4) 幼保・小中・高の連携へのご意見.....	6
(5) 専門的な学び・学力向上の必要性に関するご意見.....	7
(6) 非認知能力・須坂市がめざす小中一貫教育へのご意見.....	7
(7) ① 特別支援教育の人的配置に関するご意見.....	8
(7) ② 個別最適な学びの具体化に関するご意見.....	8
3. 小中一貫教育のよさと課題について（P3 関連）.....	10
(1) 固定化解消・多様な人間関係を評価するご意見.....	10
(2) 異年齢交流のよさと中学生による下級生への影響に関するご意見.....	10
(3) 人間関係の固定化・9年間同一集団に対するご意見.....	11
(4) 小学校卒業という「節目」の喪失へのご意見.....	11
(5) 中1ギャップ・不登校に関するご意見.....	12
(6) ① 制度設計、発達段階に関するご意見.....	13
(6) ② 他自治体の課題事例に関するご意見.....	13
(6) ③ 学力向上・不登校改善に関するご意見.....	14
(6) ④ 4-5 制へのご意見.....	15
(7) 体育館・プール等の施設面に関するご意見.....	15
4. 新しい学校の形態（義務教育学校・小中一貫型学校）について（P4 関連）.....	16
(1) 義務教育学校・小中一貫型学校への再編賛成というご意見.....	16
(2) ① 形態を統一してほしいというご意見.....	16
(2) ② 分ける必要はない・現行の連携で足りるというご意見.....	16
(2) ③ 制度が複雑で分かりにくいというご意見.....	17
(3) 「新しい学び」「めざす学校」の理念に賛同するご意見.....	18
(4) 「新しい学び」の具体性不足・分かりにくさを指摘するご意見.....	18
(5) 人格形成・情操教育の視点からのご意見.....	19
5. 学園別計画・ロードマップ・小規模特認校について（P5 関連）.....	20
(1) ① 東三校の再編・施設一体型へのご意見.....	20
(1) ② 東中学区の児童数減少・単級化に関するご意見.....	20
(1) ③ 高甫小が第一学園から外れた経緯・通学区に関するご意見.....	21
(2) ① 第一学園の小規模特認校制度に期待するご意見.....	22
(2) ② 制度内容の不明確さ・デメリットに関するご意見.....	22
(2) ③-1 豊丘小での小規模特認校の先行導入を求めるご意見.....	23
(2) ③-2 豊丘小学校の存続を求めるご意見.....	23
(2) ③-3 第一学園への小規模特認校導入を有効とするご意見.....	24

(2) ④ 豊丘小への当面の複式学級・少人数対策に関するご意見	24
(3) 豊丘小の統合先変更に関するご意見	25
(4) 通学区域の見直しに関するご意見	25
(5) 四つの学園構想の妥当性・学園数へのご意見	26
(6) ① ロードマップ・期間短縮に関するご意見	26
(6) ② 柔軟な見直しと長期的な基本方針へのご意見	27
(6) ③ 校舎設置場所・整備方針の早期提示に関するご意見	28
(6) ④ 保育園・幼保との連携に関するご意見	28
6. 学校生活・通学・運営について (P6 関連)	29
(1) 通学距離・安全確保・スクールバスに関するご意見	29
(2) 児童クラブ・児童センターに関するご意見	29
(3) 校舎・施設・環境整備に関するご意見	30
(4) 空き校舎の活用・不登校の居場所に関するご意見	30
(5) 教職員配置・養護教諭・事務職員に関するご意見	31
(6) 部活動・土曜授業・PTA 等に関するご意見	31
(7) 運営面（保健室・図書館等）のメリットに関するご意見	32
7. 財政計画・予算について	33
(1) 予算・財源の提示に関するご意見	33
(2) 財政を理由とした説明・コスト比較 教育予算増額に関するご意見	33
8. 地域コミュニティ・学校と地域について	35
(1) 学校再編による地域への影響に関するご意見	35
(2) 跡地・施設管理に関するご意見	35
(3) 地域との協議に関するご意見	36
(4) 人口増施策との一体的検討に関するご意見	36
9. 変更経緯の説明要望について	37
10. その他・個別の意見について	38
(1) 賛成・肯定的なご意見	38
(2) 豊丘住民の賛否・子育て世帯との温度差に関するご意見	38
(3) 学校選択制に関するご意見	38
(4) 先行事例の検証・データ提示に関するご意見	39
(5) 現状での小中連携の可能性（統合不要論）に関するご意見	39
(6) 教育の質・学力・学校経営に関するご意見	40
(7) 子どもの声・当事者の参画に関するご意見	40
(8) 2つのテーマの切り分けに関するご意見	41
(9) 須坂市オリジナルモデルに関するご意見	41
(10) デメリット併記に関するご意見	42
(11) まとめ・情報公開に関するご意見	42
(12) 構想の早期実現を望みつつ、開校までの居場所づくりを求めるご意見	43
(13) 構想の前提・進め方に関するご意見	43
(14) 市民参画・熟議のプロセスに関するご意見	44
(15) 教育の質や学校経営に関するご意見	44
(16) 今ある学校での指導充実を求めるご意見	44

1. 構想の進め方・策定プロセスについて

(1) 早期実現・推進に関するご意見

- ・須坂学園構想につきましては私自身よい方向ですので1日でも早く実現のぞみます。
- ・急速に少子化が進んでいく現況の中で、須坂学園構想については、今後さらなるスピード感と行動力を持って具体的な制度設計や実施計画を進めていただきたいと思います。今、そして未来の子どもたちのために、「総意を得るために検討し続ける教育行政」ではなく、「今ここにある課題を早急に解決するための、力強く前へ押し進む教育行政」を強く望みます。
- ・現在の中学校区の問題があり、新学園区の区分けも難しいかもしれませんが、少子化のスピードを考えると早く新学園が開設されることを望みます。
- ・どの部分と言うのではなく、時間がかかり過ぎているのが気になります。子どもの数が減るのはわかっている、なぜこんなに時間をかけるのか？スピード感を持ってやらないと、また違った課題が出てややこしくなるのではないかと思います。
- ・準備がいろいろあるので、これ以上策定を伸ばさないようにして欲しいです。
- ・四年間かけ検討されてきたので、これ以上計画を伸ばすことは子どもの学びの保障や新しい学びの実現が遅れる事になります。丁寧な説明はされていると思いますので、計画を推進してほしいと思います。
- ・案策定までに昨年度から複数回に渡って、地域や学校、保護者への説明会がなされていて、少しずつ基本方針案についての地域の理解が深まっているように感じています。こうした「子どもたちのため」「地域のため」の学校という思いが須坂の中で盛り上がり、子どもたちも市民も夢を抱ける学校づくりが進んで欲しいと感じています。
- ・地域の声は大事だが、地域のエゴに左右されずに大局的に須坂市がめざす新しい学校を早急に進めて欲しい。
- ・須坂市では2020年度からあり方検討委員会を開き、2024年10月から新しい学校づくりだよりを発行するなどしてきたにも関わらず、さらに今後6～7年後の開校というのは遅すぎるのではないのでしょうか。児童生徒数の減少は喫緊の課題です。地域住民への説明、開校までの準備期間が必要なのは重々承知ですが、それよりも、まさに今、減少の波にさらされている児童生徒たちが卒業する前にその恩恵が受けられるよう、県内の他自治体のようにもう少しスピード感をもって教育環境の整備をお願いしたいです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は、2020年度からの「学びのあり方検討会議」の提言、2023年度の「須坂市小中学校適正規模等審議会」の答申を踏まえ、6年以上にわたる議論の積み重ねの上に策定しました。2026年度の児童生徒数は3,498人ですが、2030年度には3,132人になる見込みであり、4年間で約400人減少すると予測しています。今まさに行動が必要な時期であるという認識のもと、基本方針策定後は、第一学園開校に向けて準備委員会を設置し、校舎整備・カリキュラム開発・通学計画等の具体的な準備を開始します。準備が整えばできるだけ早く開校できるよう、スピード感をもって取り組んでいきます。

(2) 丁寧な合意形成を求めるご意見

- ・学園構想は、修正案が出されましたが、十分な説明もありません。保護者や教職員、地域住民から質問・意見をだしてもらい、議論していく段階だと思います。9月決定にこだわらず、納得と合意ができるよう丁寧に進めていくことを切望いたします。
- ・「修正案」の決定にあたっては、再度の意見交換会（期限を切らないで）の開催を求めます。
- ・「方針案」を9月に決めることは中止し、再延期を求めます。
- ・明治以来百数十年にわたって維持されてきた学制を改定する取り組みですので、1年～2年の短時間に決めてしまうのではなく地方自治の基本に戻って策定してください。
- ・前案では、このベクトルの異なる二つの重大なテーマが、同時に提案され、しかも、結論をかなり急ぐ形となっていました。この結果、もっと時間をかけて検討すべきと、市民から強い要望が寄せられた一因と思います。
- ・拙速に進めることなく、PTAや地域住民と意見交換を重ね、もっとゆっくり進められるよう、ご配慮を頂きたいと思います。
- ・検討開始時期がもう10年早かったら、市民として、もっとゆっくりと検討できたはずですが。この点、非常に残念です。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。2025年度は小中PTA説明会・保育園幼稚園保護者説明会・地域説明会（計8回 延べ281名参加）・市民アンケート（約200件）・中学生・小学生との意見交換会・全教職員への説明会等を実施してきました。豊丘の市民団体と高甫地区区長会からの請願採択を受けて策定期を2026年9月に延期するなど、市民の声を踏まえて対応してきた経緯があります。今回のパブリックコメントもその一環です。基本方針策定後も、これから設置する準備委員会を通じて保護者・地域・学校が一緒に話し合う機会を継続的に設けていきます。また、新しい教育体制への移行にともなう成果や課題を確認する場を設けるというご提案についても、準備委員会での検討事項として受け止めます。ただし、2030年度には児童生徒数が3,132人になる見込みであり、対応が遅れるほど深刻な状況になっていくと考えています。

(3) 策定プロセスの透明性・住民参加へのご意見

- ・検討会議や審議会で時間をかけたと言いますが、当初案では住民の生の声の聞き取りは無く、基本方針検討委員会及び策定委員会は非公開で、委員の名前も明らかにされていません。父母・住民不在の上意下達的な進め方では、納得と信頼と協力も得られず、須坂の学校の未来づくりを推進することは出来ないと考えます。父母・住民、関係者との対話と協議を重ね、理解と納得による合意形成を図るようにしてください。
- ・各学校への説明会の場では質問を受け付けなかった事。市役所の方々は時間の関係とおっしゃっていましたが、強引に第一案をつき通すという感じを受けました。その後、地域説明会では質問を受け付けていましたが、どんな意見を受けても第一案を突き通す感じがとれました。
- ・市民が望むべき学校・教育を作り上げるのか？説明でねじ伏せるのではなく、対話を進めることがこれからの須坂市の希望であります。
- ・「修正案」の前の案について、説明会への参加者が非常に少なかったです。それは、教育委員会のスタンスが「これが正しい。不安や疑問は課題としてお聞きして、説明すれば理解してもらえる」

というもので、「市民の合意をつくる」姿勢ではなかったからです。

- ・一部の「有識者」が非公開・密室の中で基本方針の大枠を決めてしまうのは民主的ではありません。基本は憲法の地方自治の本旨に基づいて市民の「参加・参画」ではないでしょうか。
- ・基本方針策定にあたって、「検討会議」はここ 10 年から 20 年にわたる須坂市の教育について総括し、問題点・課題等を明らかにしたのでしょうか。「つなぐ、のばす、いどむ」はそのうえで保護者、一般教員などの意見が反映されてのものでしょうか。そうであるとすれば、その資料などは公開すべきではないでしょうか。
- ・各学校がどのように運営されているか、地域および保護者・学校関係者と議論を重ねる中で合意形成を図るべきであった。それが、今回は有識者会議（アリバイ）という隠れ蓑の中で非公開で決定されたと考えざるを得ない。
- ・学校（教育委員会）主催の説明会での意見交換やアンケートでは、校長の目の前で学力に自信のある保護者の勇ましい論が幅を利かせてしまい、ほかの意見（弱者？）は出しにくい雰囲気となってしまう。一方で、地域での雑談の中では地元の学校はどうなるんだ、子どもの声が聞こえなくなるなどの心配の声が多い。
- ・この教育構想の論議に現職の教員は参加していますか。児童生徒に直接携わり責任があるのは現職の先生たちではないでしょうか。
- ・教育制度改革の方向に、自校の子供たちの姿から「こうありたい」を述べ、現職管理職も是非議論に参画してほしいものだ。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。本案は、2020 年度からの「学びのあり方検討会議」の提言、2023 年度の「須坂市小中学校適正規模等審議会」の答申、検討委員会の議論を経て作成しました。議論の経過は市ホームページで公表しています。2025 年度には保護者説明会・地域説明会・市民アンケート・小中学生との意見交換会・教職員向け説明会等、幅広い意見収集を行いました。説明会については、回を重ねるごとに進め方を改善し、初めて参加された方が発言しやすい形に切り替えるなど工夫を重ねてきました。また、2025 年 4 月に市内全学校の職員に向けてオンラインによる説明会を行い、後日学校で教職員の意見の集約を行いました。今後も保護者・地域・学校が一緒に学校づくりを進めていく仕組みを整えていきます。

（4）意見募集の方法へのご意見

- ・学校からアンケートを各家庭に提出してもらうなどしないと意見を言える事を知らない家庭もあると思います。
- ・お忙しい子育て世代に回答してもらえるように今回のような QR コードや、選択肢があるアンケートもいいと思いました。
- ・この「ご意見」の出し方ですが、「基本方針案のどの部分か」と内容を方針案の方向に誘導するのはいかなものかと思います。また、圧倒的多数の市民がこの「方針案」をよく理解していない中、意見を出す人は限られています。その上、住所と氏名の記載が求められると、意見を出す人はさらにしぼられると思います。
- ・進めるにあたり、現在の小中学校に通っている、これから通うであろう幼稚園、保育園の親子にアンケートを取るべきではないか？
- ・構想期間から考えると、主な対象者は現在乳幼児がいる家庭や今後出産を控えている家庭である

ため、それらの方からの意見を反映するために、各保育園等の保育参観・懇談会やマタニティセミナー等に出向き説明いただくことはできないか。マイホームの購入者が多い世代でもあり、学園構想による生活環境への影響は大きい、実現までの期間が長く自分事と捉えにくいことから、現時点では関心があまり向いていないように感じる。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。今回のパブリックコメントは、意見箱・郵送・Eメール・QRコードによるオンライン提出と複数の手段を設けており、できる限り多くの方がご意見を出しやすい環境を整えています。住所・氏名の記載については、パブリックコメント手順運用指針に基づく本市の標準的な運用によるものです。保育園・幼稚園等への説明については、2025年5月から5か月間かけて市内全保育園への個別説明を実施しており、今後も乳幼児・子育て世代への説明機会を継続的に設けていきます。

2. 須坂市がめざす小中一貫教育（教育内容・カリキュラム）について

（1）教科担任制に対するご意見

- ・5年生から専門教科の教員による授業を受けられることは、学力向上につながるのではないかと考えます。
- ・小学校5年からの教科担任制は、学力向上につながります。教科の専門性を生かした授業展開により、子どもたちの伸びる芽を一層伸ばす指導ができます。その教科の見方・考え方をより意識した授業展開により、教科の魅力が子どもたちに伝わり、「好き」や「やってみたい」という興味・関心を引き出していました。
- ・教科担任制にも期待しています。専門性を生かした授業が受けられることはもちろん、子どもたちが多くの教員と関わることも大きなメリットだと感じます。小学校の担任の責任が大きすぎることの負担も軽減できると思われます。
- ・小中一貫教育に向けて、学年担任制・教科担任制を導入することは、多くの目で子どもたちの成長を見取り、関わっていくことができるため、とてもよいなと感じています。
- ・小学生のうちから、教科担任制を取り入れていくのは、中学から急に環境が変わるのを軽減できるのでいいと思います。
- ・1から4年生までは学級担任制、5から9年生までが教科担任制ということで、それぞれの発達段階に応じた体制となっており、安心しました。また、今は小中連携で行なっていることが、より進めやすくなるのではという期待もあると感じています。
- ・「5年生からの教科担任制」の導入は、教員の専門性を生かした質の高い授業を可能にし、子どもたちの確かな学力向上に直結する魅力的な施策です。
- ・教科担任制は、児童生徒の、その教科に対する興味関心を誘発する魅力を秘めている。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。5年生からの教科担任制は、教科の専門性を生かした授業展開により、子どもたちの確かな学力の定着が期待できます。現在、市内には単級の学校が多く、特に理科等の専科教員配置が困難な状況があります。小中一貫教育では、小学校と中学校の教員が一緒に教科ごとの話し合いや研究を行うことができ、9年間を見通したわかりやすい学習につなげることができます。また、子どもたちが多くの教員と関わることも大きなメリットです。いただいた具体的なお意見は、今後の学園づくりの参考とさせていただきます。

（2）教科担任制・教員配置に関するご意見

- ・基礎充実期、応用活用期から一部教科担任制や教科担任制が新しく始まるとあるが、少子化によるクラス数減少により教員の数が減り一人ひとりに負担を軽減するという観点から、教員の持っている教員免許の関係で、小学校と中学校の教員免許を両方持っている教員に負担が偏らないのかなと心配しています。
- ・小学生のうちから、教科担任制を取り入れていくのは、中学から急に環境が変わるのを軽減できるのでいいと思います。しかし課題としては、職員の負担が増えてしまうのでは、と不安になります。成長段階に応じた丁寧な支援のためには、職員数増をお願いしたいところです。
- ・教員の人数を増やし、子どもたちに対してこまやかな指導が行われるようにしてほしいと思いま

す。

- ・義務教育学校となる第一学園でも、各教科複数人の担当や7から9学年以外でも担任、副担任を配置するなど、職員の配置数について厚みを持たせていただけるとありがたいと考えます。
- ・義務教育学校にしろ一貫校にしろ、5・6年生の成長期を保障すべきです。そのためにも教科担任制でなく、人間味と実力あるクラス担任が担当すべきと考えます。
- ・教科担任制に授業の形態を変えても解決にはならないでしょう。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小中一貫教育では教員同士が連携して授業づくりや教材研究を進めることができ、教材づくりや授業準備を一人だけで抱え込まずに取り組み、授業力向上につながります。また、現在の小規模校で課題となっている「一人の教員が多くの仕事を担当しなければならない」状況の改善が期待できます。あわせて、複数の小規模校が一つの学園になることで学校全体の教職員数が確保され、これまで一人の教員が兼務していた教科を専門教科の教員が担当できるようになります。

(3) グローバルスタディ・英語学習へのご意見

- ・3ページ、グローバルスタディとして英語学習の充実を挙げておりますが、今後本当に英語力が重要になると考えているのでしょうか。同時翻訳も可能な時代となり、言語の壁はなくなるのではないのでしょうか。これからは英語力より自分の考えを言葉にする力、文章を正しく読み解く力など国語の方が大事と思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。グローバルスタディは英語力のみを指すものではなく、自分の考えを言葉にする力・文章を正しく読み解く力・相手に伝える力を含む、幅広いコミュニケーション能力（言語活用能力）の育成をめざすものです。AIによる翻訳技術が進歩する時代だからこそ、自分の考えを持ち、それを的確に表現する力がより重要になると考えています。国語の重要性についてのご指摘は、準備委員会の部会での検討に活かしていきます。

(4) 幼保・小中・高の連携へのご意見

- ・小中9年間だけでなく幼児期を含めた12年間を見通した教育活動ができるのは大きな魅力だと思います。
- ・教育のスタートは小1ではなく、幼児教育にある。須坂市の保育は、「信州自然保育」の浸透等を通して、これからの子どもたちにどうしても身につけて欲しい「非認知能力」の重要性を訴えている。須坂市の自然環境の中で、感動する心・やり抜く心・自分を信じる心・思いやる心などの芽生えを体験した園児が、小・中・高の連続性の中で、その能力を存分に伸ばし切り、大人になってからの生きる力にするために、12年間を通しての一貫したカリキュラムを作成し、見守りたい。
- ・6月議会の一般質問で、「おらほの学校」は小学校であって、中や高ではない、という言葉があった。これからの教育はそれでいいのだろうか。学校という考え方を、そこから脱却させたい。「おらほの学校」は、幼保・小・中・高に位置づけられるような一貫した流れの中で行う教育をめざ

すことが重要だと思った。

- ・ 幼保小中高の教育を進めるなら、須坂市立須坂高校をつくってしまったらどうか。
- ・ 現在日野地区は日野保育園と日野小学校で連携をし、子どもたちも交流する中でとても良い雰囲気だと感じます。保育園の子も小学校へ行くイメージが湧くことで、入学した後も自然と小学校生活に慣れている感じがしました。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。幼児期からの「非認知能力」を生かして12年間を見通した成長を支えることは、須坂学園構想の5つの特色の一つです。現在も各保育所・幼稚園と小学校の連携を進めており、今後は小中一貫教育カリキュラムの中に幼児期からの学びをつなぐ視点を組み込んでいきます。12年間を見通した一貫したカリキュラムの作成は、準備委員会の最重要課題として取り組んでいきます。幼保小中高の一貫した流れについては、須坂学園構想の方向性と重なるものであり、今後の検討の参考とさせていただきます。なお、須坂市立高校の設立につきましては、須坂学園構想の範囲を超えるものですが、須坂市の教育の将来を見据えた貴重なご意見として承ります。

(5) 専門的な学び・学力向上の必要性に関するご意見

- ・ 須坂市の児童生徒の学力をもっと高めてやりたい。これまで、小・中がそれぞれ知恵をしぼり、連携を試みながら系統的な学びの連続性を試みた。しかし、須坂市には、1小から2校の中学に進学するケースが多くある。それぞれ自校の実情に合わせた方策を実践してきたが、当然のことながら連携という面からは統一性に欠けざるを得なかった。小中の一貫性のある教育の必要性は、「学力向上」という観点から須坂市の悲願である。
- ・ 資料にある「専門的な学び」「連続性」「ふるさとを生かした学習」「多様性」「協働」の5つの特色は、未来の子どもが成長・飛躍していくためのキーワードであると考えています。
- ・ 基本方針p3にある「須坂市が目指す小中一貫教育の5つの特色」はぜひ実現して欲しいです。ハード面でなくソフト面の充実が大事です。教員が教壇に立ち一方的に授業するスタイルから脱却し、子どもの意見を尊重する学習スタイルを確立して欲しいです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂市では、1つの小学校から2つの中学校に進学する小学校が6校あり、小中の連携という面では統一性を持たせることが難しい状況があります。小中一貫教育では、小学校と中学校が一貫した教育目標を設定し、9年間の系統性・体系的に配慮したカリキュラムを編成することで、この課題を解消します。「専門的な学び」「連続性」「ふるさとを生かした学習」「多様性」「協働」の5つの特色は、未来を生きる子どもたちに必要な力を育むための柱として、着実に進めていきます。

(6) 非認知能力・須坂市がめざす小中一貫教育へのご意見

- ・ 非認知能力をはぐくむといいますが、どういうことでしょうか。認知症をはぐくむということでしょうか。
- ・ 「新しい時代の学び」「非認知能力」等の提言、取り組みは市民には説明されていません。市民には

わからなくてもいいのでしょうか。改めて説明してください。

- ・園小連携でどんな内容を話し合いカリキュラムを作っているのか。須坂モデルを実践すると育つのか。園での遊びを通して培われた非認知能力の科学的根拠は何か。「12年間を通して非認知能力の育成に努める」とあるがその内容が発達段階に合っているのか。またそれが非認知能力につながるのですか。
- ・幼児期に培った「非認知能力」を生かせるでしょうか。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。非認知能力とは、テストで測れる学力（認知能力）とは異なり、「感動する心・やり抜く心・自分を信じる心・思いやる心」など、生きていく上で大切な力のことです。幼児期に保育園・幼稚園での遊びや体験を通じて培われ、小中学校での学びの中でさらに伸ばしていくことをめざしています。「新しい時代の学び」「非認知能力」等については、リーフレットや説明会等を通じて引き続きわかりやすくお伝えしていきます。

(7) ① 特別支援教育の人的配置に関するご意見

- ・特別支援教育についてです。ぜひ、各校においてどんな支援が適切か判断が難しい児童についてじっくり観察をしてアドバイスをいただけるような立場の方を多く配置していただけるようお願いしたいです。現在の勤務校である小学校でも特別支援学級はありますが、当然通常学級にも特別な支援が必要な子達が在籍しています。そんな子達に対して、担任の先生方を中心に校内関係者会議などを開きながら対応は検討していますが、なかなか効果的な支援かつ、持続可能な支援が見通せていない状況があります。ぜひ、学校の相談に応じて頻繁に学校に出入りし、子どもと教師の困り感を受け止めて一緒に具体的な対応を考えていただける立場の方が多く配置されると子どもも先生方も安心して学校に来ることができると思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。特別支援教育と多様性を包み込むインクルーシブな教育の充実は、須坂学園構想の中核の一つです。須坂支援学校がセンター的機能を発揮できるよう、専門的な支援や相談機能をさらに充実させ、市内の学校でも特別支援教育をより充実させていきます。学校の相談に応じて専門家が学校に出向き、子どもと教師の困り感を受け止めて一緒に具体的な対応を考えていく支援体制の充実についても、今後の重要な課題として取り組んでいきます。

(7) ② 個別最適な学びの具体化に関するご意見

- ・個のペースでの学びについてです。これについても不安な点がいくつかあります。一つ目は学びの場所を個別化することで大人の目が届くのかという安全管理の問題が起きてくると思います。どのようなパターンを市は想定しているのか知りたいです。二つ目は、自由進度学習など個のペースに合わせた学びのバリエーションの具体例や学習資料などを市から示していただきたいという点です。現場の先生方は大変多忙です。私も自由進度学習に取り組んだことがありますが、ノートと教科書だけあればいいというわけにはいきませんでした。市で採択している教科書について各教科で自由進度学習で使える学習カードや、学び合いで使える学習カードなどを用意してい

ただけるとありがたいです。

- ・「はやい ゆっくり」「ひろい せまい」「みんなと ひとりで」といった個々の学びの姿の多様性を、学ぶ場に合わせなければならないという体制の中で断ち切ってしまうような学びの場づくりは、子どもの学ぶ権利を一層大切にできる取組であると考えます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。具体的な授業内容や学習の進め方については、これから設置する準備委員会の部会で検討していく予定です。学習資料は、現場の先生方の専門性と経験を活かしながら、市が積極的にサポートできる体制を整えていきます。

3. 小中一貫教育のよさと課題について（P3 関連）

（1）固定化解消・多様な人間関係を評価するご意見

- ・学校では、少子化による影響を強く感じています。単級の学校では人間関係が固定化しやすく、一度トラブルが起きると関係を変えることが難しい場面もあります。また、子どもたちが多様な考え方や価値観に触れる機会も限られがちです。個人的には、自分に子どもができれば単級ではない学校に行かせたいと思うほどです。
- ・子どもの学びを小学校教育・中学校教育と別々に考えるのではなく、9年間の連続した学びととらえることで、教職員と保護者が大きなスパンで子どもの成長をとらえ、成長を支えるための支援ができる点がよい。また、子ども自身も、様々な年齢の子どもが身近にすることで、自身の成長をふりかえったり見通しをもてたりできることと、多様な価値観に触れる機会が増すことが期待される。
- ・現在、令和8年度の時点でも、市内小規模校では子ども同士の人間関係の固定化や、多様な価値観に触れる機会の不足、教職員配置の制約など、学校運営への影響が現れています。これは単なる学校運営上の課題ではなく、子どもたちの将来に直結する問題です。
- ・須坂学園構想では、「1学年2学級以上の学級数が確保され、人間関係の固定化を回避できる」「小中一貫教育では幅広い年齢層とのコミュニケーションが期待できる」（基本方針案P3）と示されています。児童生徒が多様な価値観や多くの仲間と関わりながら成長できる環境を整えることは、少子化が進む中でますます重要になると考えます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。1学年2学級以上の学級数を確保できればクラス替えが可能になったり、単級であってもある程度の子ども数の確保ができたりすると、人間関係の固定化を回避できます。また、小中一貫教育では幅広い年齢層とのコミュニケーションが日常的に生まれ、上級生への憧れ・下級生への思いやりが育まれます。全国の義務教育学校の事例では、中学生が行事や学習で小学生と関わる時に、とても優しい姿が多く見られています。具体的にご経験に基づくご意見は、今後の学園づくりの参考とします。

（2）異年齢交流のよさと中学生による下級生への影響に関するご意見

- ・義務教育学校では、異年齢・異学年の交流が日常にあふれています。休み時間に中学3年生が小学1年生をおんぶして遊んでいます。小中の交流給食や縦割り清掃などでは、思いやりのある行動が自然と表れます。小学生は先輩の姿を良きロールモデルとして憧れを抱き、中学生には責任感と優しさのある態度が育まれます。多様な他者とかかわりながら学ぶ経験が日常的に可能でした。
- ・他市町村の小中一貫校の様子から、中学校の生徒指導上の問題が下学年に影響したという事例は聞いたことがありません。むしろ9年生と1年生がともに活動する中で思いやりや憧れの気持ちを大きくすると聞いています。メリットを聞くことが多いです。
- ・私は教職員で、本校でも異学年集団による学習を行っています。義務教育学校や小中一貫型学校になれば、小5～中1のような集団での学習も可能となり、学習の深まりも大きくなると思います。
- ・中学生の、思春期独特の反抗的な態度や悪態をつく姿を、小学生が「カッコいい」と勘違いしてし

もう恐れがあるのではないか。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。義務教育学校では、異年齢・異学年の交流が日常にあふれ、小学生は先輩の姿を良き手本として憧れを抱き、中学生には責任感と優しさのある態度が育まれます。全国の義務教育学校の好事例として、中学生が小学生に優しく接する姿が多く見られています。義務教育学校の先進校からは、「中学生は、行事や学習で小学生と関わると、とても優しくなる」と伺っています。

(3) 人間関係の固定化・9年間同一集団に対するご意見

- ・小中一貫教育のメリットは理解していますが、9年間同じ集団で過ごすことによる人間関係の固定化や、いじめ・不登校の長期化を心配しています。「クラス替えで対応する」という説明だけでなく、各学年の想定学級数、定期的なクラス替えの実施方針、スクールカウンセラー配置、相談窓口の充実など、具体的な支援体制を示していただきたいです。
- ・クラス替えが2年ごとにあるから学校生活に耐えている人も少なからずいると思います。子どものいざという時のための逃げ道を確保してほしいと願います。
- ・東中学校は、東三校の学区のままで、このまま生徒減少に向かっていくだけです。固定した人間関係が9年間継続するだけです。学区再編に大いに期待していただけに残念です。
- ・その状態で9年間過ごさなければならない子ども達が気の毒です。
- ・固定化した人間関係による集団不適應への対応（コミュニケーションスキルを向上、非認知能力の育成）
- ・長期間の人間関係固定化や転入生への配慮

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園の場合は、義務教育学校になるにあたり、単級であってもある程度の子どもの方数の確保ができ、学級での人間関係の固定化を回避できます。また、教員数の確保ができること、小中の教職員が連携できることで、より多くの教職員の目で子どもたちを見守ることができます。

また、文部科学省の「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」には、小中一貫教育を進めている学校では、いじめや不登校・暴力行為などが減った例が紹介されています。学園になっても校内教育支援センターを設置し、教室以外でも安心して過ごせる場所を確保したいと考えています。スクールカウンセラーの配置・相談窓口の充実等についても、準備委員会の中で検討してまいります。

(4) 小学校卒業という「節目」の喪失へのご意見

- ・デメリットとして、自分としては、小学校卒業というのは、卒業の中で一番印象的であり、節目であった記憶があります。その小学校の卒業式がなくなるというのは、大きなメリハリのチャンスを失う気がします。
- ・小中一貫校という制度そのものについて、成長期の子どもにとって、9年間という長い期間のなかに何らかの節目が必要ではないか、という疑問が出されていました。現状の6・3制ならば小

学校卒業がそれに該当します。小中一貫校の趣旨は理解できますが、何らかの形で節目を設定していただければと思います。

- ・小学6年生の姿を見て、低学年の子どもたちがあこがれを持つ「音楽会」や「運動会」、自分たちの面倒を見てくれた卒業生を送り出す「6年生を送る会」や「卒業式」などの行事が小中一貫では無くなってしまいます。小1と中3では、あまりにも発達の課題が違います。
- ・「小中一貫教育」について。子どもの発達段階に即したものでなく、子どもの成長に有害です。小学校入学は、子どもの成長にとって、大きな節目です。このような子どもの成長と発達の場を「小中一貫教育」はゆがめてしまいます。
- ・6年生で卒業がないので、子どもたちに余裕がありました。卒業の準備などに時間を費やすことがないので、総合的な学習の時間や、学級や学年の活動に思う存分時間をかけることができます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。義務教育学校では、原則として小学校の卒業式という形では行わず、修了式を行っている学校があります。須坂市の小中一貫教育では、1～4年生を基礎充実期、5～9年生を応用活用期・発展期とする「4-5制」により、それぞれの段階に応じた成長の節目を設けます。5年生からの教科担任制への移行も、子どもにとっての新たな一歩となります。節目の設定については、新しく設置する準備委員会で、学校行事の内容や進め方も含めて今後のあり方を検討していきます。先進校では、学校行事や活動ごとに主体となる学年を決めて役割を割り振る工夫をしており、多くの学年がリーダーとして活躍できる場を設けています。6年生の卒業の準備に費やしていた時間を、総合的な学習の時間や学級・学年の活動に充てることができるという義務教育学校ならではの良さもあります。

(5) 中1ギャップ・不登校に関するご意見

- ・小中一貫型学校にしたら「学力」も上がり「不登校」が少なくなるのですか。今でも適正規模の学校なのに「不登校」が多いのに何をもっていいきるのですか、その具体策は何ですか。視察した信濃小中学校では不登校が増えているそうです。
- ・現在須坂市の不登校の子どもさんが160名近くいらっしゃると思いますが、それ以上に増えるのではないかと。
- ・長野県の不登校の児童・生徒の多さは、全国三番目とか。先生と子ども達がゆったりふれあえる場が大切では。先生たちの多い集まりで、“小規模校勤務の時は、本当に楽しかった”の発言が多かった。
- ・中学校への転換は中一ギャップというより、新たな友達関係も出てきて将来的にも友情が深まる。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。今回の案で「中1ギャップ」という語を用いていないのは、「9年間を見通した滑らかな接続」という表現に整理したためであり、小中の接続を重視する考え方は変わりません。小中一貫教育では、小学校と中学校の教員が連携して子どもたちを見守ることができるため、問題が大きくなる前に気づき、早めに対応できることが期待できます。各学園に小学生から中学生が利用できる校内教育支援センターを設置し、集団生活の苦手な子ども・不登校傾向の子どもへの個に応じた支援を行いたいと考えています。現在も須坂市の教育支援センター「フレンドリールーム」では、専門的な支援のもと小学生

と中学生と一緒に活動しており、コミュニケーション力が育ったり人との関わりへの不安がやわらいだりする様子が見られています。不登校の問題は学校規模の大小だけで決まるものではなく、9年間を見通した継続した指導体制の構築と、子どもたちが多様な人と関わりながら成長できる環境づくりの両面から取り組んでいきます。

(6) ① 制度設計、発達段階に関するご意見

- ・ 2ページ小中一貫教育 子どもの成長、発達段階を無視したもので、導入すべきではない。
- ・ 小学校と中学生では精神面でも体力面でも、ギャップがあり過ぎます。それを一緒に扱うのは無理があるのでは。小学校、中学校……と段階を踏んで世界を広げてゆく方が良いと思います。
- ・ 4年生までの校舎の中で、年長としてふるまわねばならないのは、かわいそうです。6.3.3制の中で、真ん中の3,4年生は、自由でのびのびできる年代です。徒党を組んで行動する楽しさを味わわせたいものです。
- ・ 「小中一貫教育」について。子どもの発達段階に即したものでなく、子どもの成長に有害です。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂市の小中一貫教育は、1～4年生を基礎充実期（学級担任制）、5～9年生を応用活用期・発展期（教科担任制）とし、発達段階に応じた「学び」を設けています。小学校低学年は学級担任制と一部教科担任制のもとで安心して基礎を固め、5年生から教科担任制に移行することで、中学校への接続をスムーズにします。学校行事については、行事ごとに主体となる学年を決めて役割を割り振る工夫をしており、4年生が常に最上級生として責任を負うのではなく、学年に応じた役割の中でのびのびと活動できる環境を整えていきます。

(6) ② 他自治体の課題事例に関するご意見

- ・ 教育委員会は今後は小中一貫教育・義務教育学校の時代だと言われますが、実際の小中一貫教育・義務教育学校では予期に相違した事態が生じています。不登校の増加、小・中の授業時間の45分：50分の調整は大ごとで、小中一体の運動会は今年度から春に1～6年生までの運動会、秋に7～9年生の文化（体育）祭に変更など大本のところどううまくいかない事が沢山出ています。このような事態をどのようにお考えですか？
- ・ 箕面市教育委員会教員アンケート（2025年4月）によると小中一貫教育における子どもにとってのデメリットは 人間関係の固定化 70% 進学経験積めない 50% リーダー性養いづらい 40% 非行生徒の悪影響 30% 体格の違いによるけが 10% という結果が出ています。小中一貫教育のデメリット・課題もしっかり受け止めるべきだと思いますがいかがですか？
- ・ 先行事例に対する検証が不十分です。市長が「小中一貫教育で大きな学校をやっている市はみんなうまくいっている」というのはあまりにも乱暴です。すでに小中一貫校として運用が行われている信濃町の小中一貫校に関しても、授業時間が小中学校で合わない点や、行事を一緒に行うことで、それぞれにとって中途半端な行事となってしまうなどの問題が噴出していると聞きます。こうした課題の検証もないまま「方針案」を9月に決めることは中止し、再延期を求めます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小中一貫教育のデメリットとして、①人間関係の固定化、②5・6年生のリーダー育成機会が少なくなる、③中学生の生活面の影響、④教室・運動場の広さの確保、⑤安全面への配慮、⑥授業時間の違いへの対応があることは認識しています。それぞれについて、クラス替えの実施・行事ごとの学年役割の割り振り・施設整備・日課の統一等の対応策を検討していきます。授業時間の違いについては、先進校では小学校の時間割と中学校の時間割を合わせ、全校で同じ日課になるよう工夫しています。先行事例の課題については引き続き情報収集・検証を行い、須坂市の実情に合った対応を検討していきます。

（6）③ 学力向上・不登校改善に関するご意見

- ・教育委員会の挙げる小中一貫教育のメリットの多くは、教委が否定的にとらえる小規模学校・学級でこそ発揮されるのではないですか？学園構想で小学校をまとめて1クラスの人数が増えれば、どの子にも目が行き届き、一人ひとりを大切にした教育・学習の向上を図ることが今より困難になるのではないですか？
- ・いじめ・不登校が増え、低年齢化しています。須坂も例外ではありません。情報化や国際化、少子化をいうのではなく、今の須坂の子どもと学校の現実の認識から出発することが肝要です。
- ・市内の中学校には以前からいじめや問題行動が多発している（た）といわれています。教師の仕事が増え、一人一人の子供たちに目が届かなくなったことが原因の一つではないでしょうか。小学校統廃合、一貫校は小規模校の良さが消滅し、いじめや問題行動が増加しませんか。
- ・どの学園構想も大規模校化すると「学力」と「不登校」が良くなるのか、その根拠を示してもらいたい。本当に「学力」があがるのか。
- ・私は超大規模校で勤務したことがありますが、大規模になれば校則・統制の下に集団が求められ、規律が先行する体制になりがち。個性が押し込まれることになります。今の案で、子どもの個性・自主性を生かした教育がなされているようには見えていません。
- ・小学校35名1クラスを一人の担任で子どもたち一人ひとりに寄りそった、きめ細かな教育は可能でしょうか。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は学校統合ありきではなく、子どもたちの将来を見据えてよりよい教育環境を整えることを目的に策定しました。小規模校には、子ども一人ひとりの学習や生活の様子を把握しやすく、きめ細かな指導を行いやすいというよさがあります。一方で、多くの友達と関わる機会が少なく、さまざまな考え方や価値観に触れる機会に限られるといった課題もあります。文部科学省の「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」には、小中一貫教育を進めている学校では、いじめや不登校・暴力行為などが減った例が紹介されています。須坂市の小中一貫教育では、「問い」から始まる学習・基礎基本の確実な習得・課題解決的学習・発展的学習という学びの4つの柱を設けており、子どもたちが主体的に学ぶ姿勢を大切にしています。大規模化して規律が先行する体制になるのではないかとのご懸念については、子どもの主体性を育てることと確かな学力の定着は相反するものではなく、両立をめざして取り組んでいきます。

(6) ④ 4-5 制へのご意見

- ・なるべく今までの形を大事にしながら、地域の中で学んでいけるよう、小学校2校(3校)統合するとか小中は別にした方がいいと思います。小学校から中学校へのギャップ問題については地域を分断するのではなく小学校全体がそのまま中学校へ上がるよう配慮して欲しい。
- ・小中を4・5年制または4・3・2年制と分けるのではなく、6・3年制とするのは教育学的にも認めるところです。
- ・小中一貫教育にすれば学力向上ができるとするのは全国的な証明事実があるのでしょうか。これまでの6・3制ではダメだったという教育学的証明があるのでしょうか。明らかにしてください。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は6・3制を否定するものではありません。少子化が急速に進む中で、現行の6・3制を維持したまま小中連携を進めることには、学校種別による制度的な制約があり、9年間を見通した一貫した教育課程の編成・教職員組織の構築には限界があります。特に本市では一つの小学校から複数の中学校へ進学するケースが多く、体系的・継続的な連携が難しい状況があります。施設一体型にすることで、日常的な異年齢交流・教科担任制のより充実した実施・校内教育支援センターの設置・教職員が9年間を通じて子どもを見守る体制の構築が、より効果的に実現できます。文部科学省の「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」には、小中一貫教育を進めている学校では、いじめや不登校・暴力行為などが減った例が紹介されています。

(7) 体育館・プール等の施設面に関するご意見

- ・要望として、義務教育型のように同じ校舎、施設を9学年が使用する場合には、体育館やプールをぜひ2つ。小学校低学年と中学生には体格的に大きな開きがあります。同じ体育館で球技等行うことは怪我につながります。時間を配分するとそれぞれの学年が使える時間に制約ができ、のびのびと体を動かす機会が減るのでは、と思います。
- ・豊丘小のプール問題。最近、外注がはやってきている。水泳で「何を教えるのか、どんな『学力』をつけるか」。これらの内容を教えるのが、教師なんです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小学生と中学生では体の大きさや体力が違うため、安全に生活できる環境に配慮します。廊下・階段・遊び場等を安全に使えるよう検討します。施設一体型の校舎では、体育館や運動場・プール等の使用にあたって時間帯や区分を工夫するとともに、施設の規模や仕様についても発達段階の違いを踏まえて検討します。具体的な内容については、これから設置する準備委員会の部会で検討していきます。

4. 新しい学校の形態（義務教育学校・小中一貫型学校）について（P4 関連）

（1）義務教育学校・小中一貫型学校への再編賛成というご意見

- ・予測困難な時代に、様々な考え方の人と力を合わせながら、自分で判断し行動できるたくましい子どもたちを育成していくために、小中一貫教育は理想の形だと考えます。より多くのアイデアで、さらに子どもたちが主役の学校に仕上げていってほしいと思います。
- ・私は、小中一貫教育を前提とした学校再編の方向性に賛成です。そのため、再編によって子どもたちが多様な人と関わりながら学べる環境を整えることは必要だと思います。
- ・これまでの須坂の小中支援学校の歴史を振り返ると、今回の学園構想は大きな転換点になると考えられます。多くの人が学校づくりに参画し、未来の子どもがよりよく成長できる環境になることを期待しています。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。市教育委員会が担う役割は、基本方針・カリキュラムの大枠・施設整備の方向性を示すことです。制服・校歌・校章・学校行事・PTAのあり方等の具体的な学校づくりについては、新しく設置する準備委員会で、保護者や地域・学校が一緒に話し合いながら決めていく予定です。また、具体的な授業内容や学習の進め方については、準備委員会の部会で検討していく予定です。基本方針策定後は準備委員会を作り、その中で準備すべき内容に応じて各部会を設置します。部会に応じて、子ども・学校・保護者・地域の方にも参加していただき、一緒に学校づくりを進めていきます。

（2）① 形態を統一してほしいというご意見

- ・第1・3学園と、第2・4学園で、義務教育学校と小中一貫型学校という、異なる形態が提案されています。非常に不自然に見えます。教員が形態別に異なるテーマを抱えることが予想されることから、須坂市内の教員同士での情報交換も、滑らかに進まない点が出てくることが懸念されます。予算を必要としますが、小中一貫教育という看板を掲げるのであれば、全て同じ形態にするのが良いものと思われます。信濃町では、全町で1校とする形をとっています。須坂市でも1校とすれば、こうした懸念は払拭されるでしょう。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。義務教育学校と小中一貫型学校は、学校の規模に応じて決めており、学習内容や教育活動に大きな違いはありません。例えば第二学園は児童生徒数が多いため、一つの義務教育学校にすると学校が大きくなりすぎる可能性があります。須坂市では義務教育学校と小中一貫型学校の両方を設置する予定ですので、学園間で大きな違いが出ないよう、準備委員会の部会等で検討していきます。

（2）② 分ける必要はない・現行の連携で足りるというご意見

- ・小中一貫教育の良さは小規模校では既に学校間交流を通じて課題はクリアしていると思います。一体型ではなく、豊丘や仁礼小については、義務教育学校ではなく小中一貫型学校での連携方式で検討すべきです。

- ・義務教育学校、小中一貫型学校とも共通のカリキュラムで教育するならば、分ける必要がないと思いますが、現行の体制でも 20 年後まで続くと思いますがそんなカリキュラムはないですか。
- ・義務教育という言葉は聞きなれているが、小中一体・校長一人の「義務教育学校」は馴染みがなく理解できない。単なる教師の効率的運用（使いまわし？）に見えてしまい、本当に子どものためかどうか分かりやすく説明されず、理解できない。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。校舎開設前から中学校区の学校が連携して小中一貫教育に取り組むことと、施設を一体化することは別の効果があります。施設一体型にすることで、日常的な異年齢交流・教科担任制のより充実した実施・校内教育支援センターの設置・教職員が9年間を通じて子どもを見守る体制の構築が、より効果的に実現できます。校舎開設前の連携は、開校後の一体的な教育をより円滑に進めるための準備段階として位置づけています。

(2) ③ 制度が複雑で分かりにくいというご意見

- ・4 ページ、須坂市が目指す学校として3項目あげてありますが、抽象的でよくわかりません。具体的にはどのような学校なのでしょう。2 ページの須坂市が目指す小中一貫教育の五つの特色のことでしょうか？
- ・なぜ市内4校を同じタイミングで一貫校・義務教育学校としないのか、教育委員会の説明するところの「今の学校は生徒が少なくかとても可哀そう」というのであれば、第一学園以外の子供たちは可哀そうではないのか。また小中一貫校と義務教育校はどちらがよいのか。また、なぜ市内の学校であっても同一の形にならないのか。それぞれのメリット、デメリットなど市民には全く知らされていないのも問題であります。
- ・基本方針の制度が何回読んでも今だに良くわからず、子ども達にとってもよくわからないまま、流れに乘せられてしまうと思っています。わかりにくいのは色々なパターンがあるからで、市内の子ども同士の会話も弾まないですね。
- ・一気に「小中一貫校」とか「4年生・5年から中3とか義務教育校とか小中一貫校」制度に分けたとか、よく分かりにくい案をみて、すっきりしない案だなあとの感想を抱きました。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。義務教育学校は1年生から9年生までを一つの学校として運営し、教職員も一つの組織となるためより柔軟に授業や学習内容を組み立てることができます。一方、小中一貫型学校は小学校と中学校は別々の学校ですが、義務教育学校同様、小中一貫教育の教育課程をもとに、教職員が連携したりしながら9年間を通した教育を行います。どちらも学習内容や教育活動に大きな違いはありません。全学園を同時に始めるためには多くの準備期間が必要であり、費用や人手が集中する心配もあるため、課題が大きい学校を優先しながら順番に整備を進めています。引き続き、市報・ホームページ・リーフレット等を通じてわかりやすい情報提供に努めていきます。

(3)「新しい学び」「めざす学校」の理念に賛同するご意見

- ・未来の須坂市を展望し、学園構想を推し進めている須坂市の取組は、非常に価値あることであり、さすが須坂市だと感じています。これまでも人権教育（一人一人の幸せを大切にすること）に力を注ぎ、市民参加の人権研修も盛んに行う中で、人が育っていく場（学校）がこのままではいけないといち早く気づき、具体的に取り組み始めていることがすばらしいと思います。
- ・須坂市の教育の形を変えることが、未来の子どものよりよい成長につながることを願っています。
- ・これからの教育は、「共生社会の担い手を育む教育」だ。その意味で、10年以上前から須坂市が行っている須坂支援学校と須坂小学校の併設は、市の大きな誇りである。その矜持を市民が共有し、市全体の教育の大きな柱として、一層「共生社会の担い手を育む教育」の重要性を前面に押し出して欲しい。
- ・須坂市がめざす子どもの姿「自分らしく未来を拓（ひら）いていく子ども」、須坂市がめざす学校「子どもが、学びをつなげ、生きる力を伸ばす学校」「子どもが多様な価値観と出会い、友と学び、地域とともに歩む学校」「子どもが、自分らしさを発揮し、お互いを認め合う学校」は、次期学習指導要領のめざす方向に重なるものであり、めざす方向性としてよいと考える。賛成。
- ・特に第二学園が、支援学校も含む小中一貫型学校となっていることは、子どもたちの今後の育ちに大いに期待できる。例えば、令和7年度全国学力学習状況調査において、須坂小の子どもたちの「友達関係の満足」「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題解決している」の肯定的な回答は、全国平均・県平均を大きく上回っている。多様性の中で生活することの重要性が分かる結果だと考える。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。「自分らしく未来を拓いていく子ども」をめざし、「子どもが、学びをつなげ、生きる力を伸ばす学校」「子どもが多様な価値観と出会い、友と学び、地域とともに歩む学校」「子どもが、自分らしさを発揮し、お互いを認め合う学校」の実現に向けて取り組んでいきます。次期学習指導要領の方向性とも重なる須坂学園構想を、子どもたちのために着実に進めていきます。須坂支援学校との学び合いは、10年以上前から取り組んできた須坂市の大切な誇りであり、「共生社会の担い手を育む教育」の重要な柱として、これからも前面に押し出していきます。須坂小学校の子どもたちの「友達関係の満足」「協力しながら課題解決」に関する全国学力・学習状況調査の肯定的な回答が全国・県平均を上回っているというご指摘も、多様性の中で学ぶことの重要性を示す貴重なデータとして受け止めます。

(4)「新しい学び」の具体性不足・分かりにくさを指摘するご意見

- ・須坂学園構想 基本指針(案)の1ページにある、めざす「学びの形」について、もう少し明確に「どういったことをやるのか?」「須坂らしい教育」はどうするのかは新しい校舎で始めるのではなく、今すぐやるべき項目であるのになぜやらないのでしょうか?
- ・小中一貫教育を進めることは大事だと思います。書かれている内容が教育の専門の方にはわかると思いますが、一般の市民のみなさんや子どもたちにとって具体的なイメージ化されていない面があります。そのためよさが伝わりにくいと感じました。
- ・これまで経験していないので、市民は不安です。新しい学校の姿がイメージできない分、不安も感じているのが現実だと思います。だからこそ、現在取り組まれている第1学園の開設を一刻も

早く実現し、須坂市民が「新しい学び」とは「新しい学校」とはどういうものか、その実際を見てイメージできることが、その後の学園構想をより豊かに展開することにつながると考えます。

- ・ 6月議会の一般質問で、「おらほの学校」は小学校であって、中や高ではない、という言葉があった。これからの教育はそれでいいのだろうか。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。具体的な授業内容や学習の進め方については、これから設置する準備委員会の部会で検討していく予定です。第一学園がモデルケースとして先進的な教育を展開することで、市民の皆様が「新しい学び」「新しい学校」とはどういうものかをイメージできるようになることが、その後の学園構想をより豊かに展開することにつながると考えています。あわせて、校舎の完成を待つのではなく、基本方針策定後すみやかに、統合する学校同士の交流活動の充実、準備委員会での市共通カリキュラムの検討、小・中学校の教員同士の合同研修を進め、「今できることから始める」取り組みを重ねていきます。今後、わかりやすい情報提供に努めていきます。

(5) 人格形成・情操教育の視点からのご意見

- ・ 教育とは人間としての人格形成も大きな要素ではないのか。そして学力向上をと考えるべきではないのか。が、今回の構想では、人格形成について考慮・触れられていない。人命のみならず「いのち」を大事にする、「弱いものを大切にする」という基本が抜けている。（動植物とのふれあい…情操教育）その意味で、これからの地球をまもる人類たる次世代の子どもたちを育てる的な気概を基本理念とした「須坂学園構想」であってほしい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。「自分らしく未来を拓いていく子ども」をめざす須坂学園構想では、学力向上だけでなく、非認知能力の育成・インクルーシブな教育・地域との協働を通じた人格形成を大切にしています。「いのちを大事にする」「弱いものを大切にする」という基本は、9年間を見通した継続した指導体制の中で育んでいくものと考えています。ご指摘の情操教育の視点は、準備委員会での検討に活かしていきます。

5. 学園別計画・ロードマップ・小規模特認校について（P5 関連）

（1）① 東三校の再編・施設一体型へのご意見

- ・第一学園は東地区に変更された印象で妥当だと思います。
- ・仁礼小学校と豊丘小学校が東中と合併する案になってとてもいいと思いました。前回の高甫小と東中の案では先生の移動が大変出し、子どもたちや親も不安になると感じていました。今回の案では一つの学校で小中学校になれば、兄弟が多い家庭は授業参観の時に移動が楽になると感じました。
- ・第1学園校舎開設では、豊丘仁礼東となりましたが、登下校などを考えても、今回の方が自然な気がします。
- ・P5のロードマップから、第1学園の組み分けが豊丘、仁礼、東の3校になり、これまでもつながりのあった学校でひとつの学校になるのは以前の案よりよいと思いました。東中学校校舎のみで全校入るのもよいと思います。
- ・第一学園が東中学校区の豊丘小・仁礼小・東中の3校になったことについては、大変良かったと思います。これまでも東三校は交流を行ってきており、6～7年後の校舎開設まで、さらに交流を深め、無理なく移行することができるのではないかと思います。
- ・第一学園の構想に関わり、当初案の「小4から中3」から、全学年が揃う「義務教育学校」へ変更されたことは、9年間の連続性を持った指導体制の構築という点で意義深いと考えます。この方向で学園構想を進めていただくことに賛同いたします。
- ・第1学園が施設分離型から施設一体型に方針を変えていただいたことは良かったです。良かった点の1つめは、第一学園が施設一体型の義務教育学校になったことです。高甫小学校と東中学校の施設分離型はかなり無理があったと思いますが、東中学校の校舎を利用した施設一体型となったことで不安が解消されました。
- ・これからは新しい学校づくりは大切です。施設分離型から一体型になったことは良いと思いますが、子どもの人数が減っていくので、計画を柔軟に考えていく必要はあると思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園は、東中学校区の豊丘小・仁礼小・東中の3校を基本とする施設一体型義務教育学校とし、東中学校校舎を活用します。これまでも東三校は交流を行ってきており、6～7年後の校舎開設まで、さらに交流を深め、無理なく移行することができると考えています。

（1）② 東中学区の児童数減少・単級化に関するご意見

- ・第1学園は開校時から単級になる可能性が高く、須坂市が目指す教育が行えるか不安です。数年後の仁礼小と豊丘小の児童数では人間関係の固定化を回避できるとは思えません。
- ・今回の改定案は、高甫小が第一学園から外れていて、東学区の人数確保よりも、小中一貫校を作ることを目的としているように取れる内容に変わっていました。東学区の人数の点を無視して話を進めていくことには賛成できません。
- ・第一学園については、東中学区で一つ、となったが、現在の生徒数でも教員の確保がぎりぎりになっており、開校の頃には学年の人数が一ケタになってしまう学年もあり、学習活動に制約が出てきてしまうのではないかと危惧があります。小規模特認校を導入しても増加する人数は限

定的ではないかと思いますので、これからも少子化が進むと、第一学園では学校規模が維持できず、他の学園に吸収合併され、東地区に学校がなくなってしまうという懸念もあります。この案を進めるには、東地区の人口を増やす方策が必要になると思います。

- ・第一学園は今までの東三校の連携を生かしていける点や施設一体型で学習できる点はよいのですが、希望する児童生徒を受け入れるものの、基本的には学年1クラスだということが心配です。クラス数が少ないと教職員数も多く配置されないので、9教科の教職員をそろえられるのか。
- ・修正案では東中学校区の児童・生徒の将来の人数をどう考えているのか知りたい。
- ・学校規模に関して。東中学校区はとにもかくにも、他の中学校区は大規模校になります。1クラスですっと進んで人間関係、人間性の広がりなど、責任ある教育ができるのか、実践事例はあるのか？
- ・少人数での学校生活は、落ち着いて過ごせたり、教職員による細やかな個別指導ができたりするプラス面もある一方で、学習活動や人間関係に課題も存在します。人間関係においても、少人数の中で固定化してしまう傾向があり、関係を崩したくないという思いから、本来の自分の思いや考えを表すことができないこともあります。また、第1学園が開設された際、仁礼小と豊丘小の児童数では学年2学級は難しい状況です。さらに、9年間同じ学級で過ごすことになり、中学校入学での人間関係を再構築する機会も失われる。現在の課題に対する改善になるのか心配です。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園の修正は説明会や意見交換を経て、総合的に判断いたしました。

少人数の中での人間関係の固定化は、小規模校が抱える深刻な課題の一つです。第一学園では、小規模特認校制度による市内からの希望児童・生徒の受け入れ、9年間を見通した継続した指導体制の構築により、この課題に対応していきたいと考えています。

(1) ③ 高甫小が第一学園から外れた経緯・通学区に関するご意見

- ・P3について、第1学園に行く学校が仁礼小と豊丘小になった経緯についてお伺いしたいです。なぜ、高甫小が外れたのでしょうか。
- ・何故、高甫小学校が東中学へ通学し、豊丘小学校が常盤中学校へ通学する案が示されたのか疑問が残ります。
- ・高甫小学校は墨坂中学校へ通うことになりますが歴史的状況を考えれば妥当だと思います。また小中一貫校で小学校と中学校が独立しているので、高甫小学校が存続することは、高甫地域にとって精神的依りどころが失われないことになり良かったと思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。今回の修正案では、東三校（豊丘小・仁礼小・東中）のこれまでの交流実績や地域のつながり、および高甫地区の歴史的経緯を踏まえ、第一学園の構成を変更しました。高甫小学校については、歴史的に墨坂中学校区との関係が深いことから、第四学園（墨坂中学校区）に位置づけることとしました。

(2) ① 第一学園の小規模特認校制度に期待するご意見

- ・小規模特認校制度導入は不登校の子には合います。
- ・P6小規模特任校制度 学校選択の幅が広がるのがよい。これまでの学校では、その学校の特色を出すのは難しかったが、小規模特認校制度を活用することで、少人数の利点を生かしつつ、その学校ならではの学習を教職員と地域の皆さんで協力してつくりあげていくおもしろさがある。
- ・小規模校だからこそできる、特色ある、魅力的な学校作りにより、市民の皆さんが第一学園を意識し、新しい学校へ通ってみたいと興味を持って受け止めていただけるのではないかと、という期待感も持ちました。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小規模特認校制度は、市内在住であれば学区外からでも通学できる制度で、学校を選べる幅が広がり、子どもや保護者の希望に合った学びの場を選ぶことができます。

(2) ② 制度内容の不明確さ・デメリットに関するご意見

- ・第一学園の小規模特認校とは、内容がどのようなものになるのでしょうか。
- ・P6の小規模特認校制度のメリットデメリットについて読んでも、デメリットの方が大きく感じてしまい、メリットをもう少しイメージしやすく伝えてもらえたり、人が増える希望をもてる対策をとっていただけたらするとありがたいです。
- ・今後6～7年後、豊丘小が存続できるのか。小規模特認校になったとて、児童生徒が集まるのか疑問。
- ・須坂市内在住で、他の学区の発達障害の児童生徒が、第一学園は人数が少ないからよくみもらえるのではないかと集中するようなことはないでしょうか。もしも、そのようなことになったら、支援員の先生を増やしていただくことはできますか。（不登校の児童生徒などの実態に配慮し、特別な教育課程を編成して学びの場を提供する学校。いわゆる「不登校特例校」）

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園に導入を考えている小規模特認校制度は、不登校傾向の子どもや特別に配慮や支援を必要とする児童生徒のための「学びの多様化学校※」とは異なります。あくまで、義務教育学校の教育活動（市内で先行して小中一貫教育を取り組んでいる学園）と小規模な学校の特色を活かした教育活動を希望する家庭の児童生徒が通学できる制度です。その点は、保護者の方に周知していきたいと思えます。

小規模特認校制度の課題として、通学の負担増加・地域の友達との関わりの減少・学校全体の児童生徒数の根本的解消にはなりにくい面があることは認識しています。これらの課題への対応については、開校に向けた準備の中で保護者・地域・学校と検討しながら進めていきます。

※「学びの多様化学校」＝不登校の児童生徒などの実態に配慮し、特別な教育課程を編成して学びの場を提供する学校

(2) ③-1 豊丘小での小規模特認校の先行導入を求めるご意見

- ・特認校にするのは豊丘小でなくては意味がないと思うのです。生徒数もどんどん減っているのです、6年後とかではなく、今すぐに特認校にするべきです。豊丘の自然環境は他にはない素晴らしいものだからです。
- ・意見交換会では、豊丘小学校の少人数が早急の問題とさんざん言われていましたが、第一学園ができるまで何も対策は行わないのでしょうか。豊丘小を今すぐにでも、特認校として、少しでも生徒数を増やすことが一番良いのではないのでしょうか。
- ・2つの特色をめざしていくのであれば、第一学園に至る前段階として豊丘の地域の方が提案する豊丘小の小規模特認校を先行事例として進めることを求めます。規模の小さな学校は豊丘小に限らない現状ですが、地域が学校と協働して学校づくりをすすめられる土壌が豊丘にはあるからです。
- ・豊丘小、独自で来年から小規模特認校進めていって、人数を増加していきたい。
- ・小規模特認校制度でまず実施して、良い点、悪い点を洗い出し公表した上で、それを6～7年かけてから小中一貫に進むべきか決めてほしい。
- ・第一学園の小規模特認校導入は一年でも早く発足させるべきです。地域ぐるみで進められるであろう豊丘の実践が今後の須坂の教育の展望を切り開くことになるでしょう。
- ・東地域学園の開設には6～7年かかるので、その間、豊丘小において、先行して小規模特認校制度を試行導入し、小規模特認校の検証やノウハウを蓄積することは、東地域学園の特認校制度に向けてきわめて有効ではないか。同時に複式学級も解消されるかもしれない。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園への小規模特認校制度の導入については、義務教育学校としての開校と合わせて実施したいと考えています。義務教育学校である第一学園は1年生から9年生までを一つの学校として設置するものであり、その一部である豊丘小学校の校舎のみで小規模特認校制度を導入してもノウハウの蓄積にはなりませんので、統合に先立った制度の先行導入は効果が薄いと考えています。一方で、開校を待つ間に豊丘小学校の教育環境をよりよくしていくことは市の責務であり、仁礼小学校・東中学校との交流活動の充実や複式学級の学習支援の工夫、コミュニティ・スクールを通じた地域の力を活かした学びを進めていきます。

(2) ③-2 豊丘小学校の存続を求めるご意見

- ・豊丘小学校は、義務教育学校にするのではなく、独立した小規模特任校として維持・存続することに大きな意味があります。豊丘地域住民の要望は、数合わせの子ども集めではありません。地域の学校と教育を大事に守り育てた歴史と精神を引き継ぎ、地域の自然、産業、生活・文化と結びあって、学校の内と外で新しい教育活動を創り出すことです。今できることとして豊丘小を小規模特認校として、複式解消をふくめ教育環境を整えることこそ考えるべきではありませんか？
- ・学校は統廃合してなくしてしまうのではなく、住民の中から提案されている小規模特認校という形の学校として残してほしいと考えます。
- ・小規模特認校制度でまず実施して、良い点、悪い点を洗い出し公表した上で、それを6～7年かけてから小中一貫に進むべきか決めてほしい。

- ・豊丘の人口が少ないから下界に来てもらって統合するというのはマイノリティの意見を尊重しているのだろうかという疑問が生じます。豊丘地区は自然が本当に豊かで、あの地域でしかできない学びがあると感じます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。豊丘地区の地域の力と歴史を大切にしながら、第一学園において小規模特認校制度を導入し、東地域の特色と義務教育学校のよさを活かした学習活動を展開したいと考えています。現状のまま豊丘小学校が存続すれば、複式学級が続き、多様な仲間と関わる機会が年々限られていくことになります。本構想では、豊丘の子どもたちが今以上に多様な人と関わりながら成長できる環境を整えることをめざしています。地域が学校と協働して学校づくりを進めていく土壌は、コミュニティ・スクールを通じて引き続き大切にしていきたいです。

(2) ③-3 第一学園への小規模特認校導入を有効とするご意見

- ・東地域の学園構想の小規模特認校導入について、中規模校？となる第一学園への特認校制度導入は効果的かもしれない。ただし、地域外から子どもたちも引き込むにあたっての具体的な方策（魅力、利便性など）が示されていないので、担当を配置するなどして地域関係者としてしっかりと連携して進めるべき。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小規模特認校制度の効果を最大化するためには、第一学園開校に向けての準備委員会等で検討を重ね、小規模の義務教育学校としてのよさや、東地区の地域の魅力を具体的に示していきたいと考えています。地域学習の担当を配置するなどして地域の方々とも連携して進めるべきというご提言は、今後の学園づくりで大切にしていきたいと思います。

(2) ④ 豊丘小への当面の複式学級・少人数対策に関するご意見

- ・豊丘にすぐにでも生徒を増やす施策をお願いします。運動会みても寂しいので。少しでも改善してほしいです！宜しくお願いします。
- ・現在、豊丘小の複式学級は、先生方のサポートがとても手厚いです。ただ日々、先生方が大変そうだなとも感じます。高学年になったら更に授業内容に集中しなければならない場面が出てくると思いますので、ぎりぎりの人数での複式学級には限界があると思います。なので生徒数を少しでも増やす対策をして頂いたり、講師の先生を派遣してもらうなど、複式学級の改善も早急をお願いします。
- ・豊丘小学校は、現在在籍 43 名の学校です。特に、低学年は学年 4～5 名の児童数です。今年度は 1・2 年生は複式学級です。複式学級の解消ももちろんですが、子どもたちが、第 1 学園開設までまだ 6～7 年この状態を続けていかないことに、課題を感じます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。豊丘小学校は現在、1、2 年生が複式学級となってい

ます。異なる学年が同じ教室で学ぶため、教員が1時間に2学年分の教材を準備したり、学習の進め方を工夫したりして取り組んでいます。学園開校前の期間における教育環境の充実が重要な課題として認識しており、東三校のつながりを大切に考え、豊丘小学校が第一学園に加わるように基本方針を変更いたしましたので、仁礼小学校・東中学校との交流授業や合同行事を段階的に行っていくとともに、複式学級の指導を支える人的支援の工夫に努めてまいります。

(3) 豊丘小の統合先変更に関するご意見

- ・ 豊丘小が仁礼小との合併について 以前は須坂小との合併でしたが今回は仁礼小に変更されていますが、今後少子化によってこの合併の数年後に再編成となる可能性はないのでしょうか？
- ・ 豊丘小が須坂小から仁礼小と合併するように変更されていますが将来的に児童減少で再編成になる可能性は、ないのでしょうか？
- ・ 昨年までの案では、豊丘小は須坂小と統合して常盤中学に行く案だったと思うんですが何で急に変わったんですか？豊丘小は再来年には新1年生が1人と聞いてます。そんな中なぜ須坂小と合併しないんですか？
- ・ 豊丘に住んでいたが、豊丘の住民が反対しているせいでいつまで経っても話が進まず、嫌気がさして豊丘小学区外に引っ越しました。豊丘地域の方が反対意見を出してきたら、当事者の子育て世帯は迷惑している、早く話を進めてほしいという意見もあることを伝えてください。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。今回の修正案では、東三校（豊丘小・仁礼小・東中）のこれまでの交流実績と地域のつながりを大切に考え、施設分離型に対する不安の声も強いことから、施設一体型の義務教育学校として東中校舎を活用することに変更しました。第一学園は今後小規模な学園になる可能性がありますので、義務教育学校の良さを強みにしながら小規模特認校制度を導入することにより市内から希望する児童生徒が通えるようにすることで、多様な人間関係の中で学べる環境を整えたいと考えています。さまざまな立場からのご意見があることを認識しており、説明会や意見交換を経て総合的に判断いたしました。

(4) 通学区域の見直しに関するご意見

- ・ 二つの中学校区を抱える小学校課題だと思います。高甫小通学区村石町、明德町は第一学園に。以外は第四学園通学区に。豊丘小通学区小日向町は第二学園にした方がよいです。1部小学校は2つの中学校を抱えています。その点はよく検討して頂きたいです。例…小山小は屋部町だけ墨坂以外は常盤中、日滝小は相森町だけ相森中以外は常盤中。
- ・ 学校単位で考えるのは1番良いのはわかりますが、現時点での通学区で考えると、小中で負担になる子が多いです。通学区の見直しをし、変更の案を提示してほしいです。
- ・ 2つの中学校区を抱える小学校の対応がわかりやすくなりました。地域や保護者の意向を聞きながら、場合によっては、現在、森上小学校から相森中学校に進学している馬場町の児童も、第二学園（常盤中）に変更していくなど検討を進めていくと良いと思いました。
- ・ 第二学園と高甫小の関連についても地域と検討していただきたいと思います。村石明德の子ども

は第二学園に入るのかということは、高甫地区の人はあまり見通していないと思います。

- ・案では高甫小学校の中学通学について、「第四学園の校舎開設にあわせて、地域や保護者の意向をお聞きしながら通学する学校を検討していきます」とありますが、以前から村石町から常盤中への通学は不都合、との意見が多くありました。この機会に早めに検討できるようにしていただければと思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。二つの中学校区を抱える小学校（須坂・小山・森上・日滝・日野・高甫）については、学園の校舎開設にあわせて、地域や保護者の方の意向をお聞きしながら、通学する学校を検討していきます。

(5) 四つの学園構想の妥当性・学園数へのご意見

- ・須坂の新生児の数が 2025 年は 230 人と市のホームページにありましたが、10 年 20 年後は更に減少しているように考えられます。今のうちから 4 学園構想でなく、3 学園構想で計画した方がいいのではと感じました。10 年、20 年後はどのくらいの児童生徒数になるのかといったシミュレーションはしているのか、その場合の教職員の数はどの程度の学校規模になると想定しているのか教えていただきたいです。
- ・4 学園は、ふるさと納税疑惑発覚から予算厳しい→2 学園が相応
- ・須坂市の規模で考えたら、4 つの中学校区にこだわらず、南北に 2 校でもよいと、思っております。
- ・ふるさと納税偽装問題による予算減の影響も考慮し、いっそう 2 学園とし、朝・タスクールバスを走らせ、日中は高齢者用を含め市内を循環させる。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。四つの学園を作る構想は、現在の中学校区をもとに、子ども達の教育環境と地域のバランスを考慮した結果です。四つの学園を同時に始めるためには多くの準備期間が必要であり、費用や人手が集中する心配もあるため、課題が大きい学校を優先しながら順番に整備を進めていきたいと考えています。2030 年度の児童生徒数は 3,132 人になる見込みであり、今後も継続して推計・公表していきます。財政面については、既存施設の有効活用や段階的な整備を行い、財政負担を分散しながら進めます。また、国の補助制度等の活用も視野に入れ、無理のない持続可能な計画としていきます。今後の児童生徒数の変化・社会状況の変化に応じて基本方針を検証し、必要があれば柔軟に見直すことを基本方針に明記します。

(6) ① ロードマップ・期間短縮に関するご意見

- ・P5 ロードマップ 学園開設までに最低限必要なハード整備の内容を改めて精査し、段階的な整備計画の導入等により、開設までの期間短縮を検討いただきたい。また、義務教育学校等の導入が他市町村との教育環境の差別化となり、子育て世代の移住者に選ばれるまちになる可能性もあるため、そういった面からも期間の短縮を検討いただきたい。
- ・5 ページ、前回の学園構想では第三学園は第二学園開設後になっておりましたが、今回は第二、

第三は同時期となっております。それができるのであれば第四も同時に進められないのでしょうか？

- ・ 2 ページの 9 年間の成長を描く新しい教育のタイムラインについて、ぜひこのような 9 年間を見通した教育を須坂の子どものために進めてほしいと思います。適正な規模の学校をできる限り早期に開設してほしいと願っています。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。新しい学園をつくるためには、校舎や設備の整備、通学方法の検討、学校名・校章・校歌の決定など、相応の準備期間が必要です。ただし、準備が整えば予定より早く開校できるよう取り組みたいと考えていますので、その旨を基本方針に明記します。第二・三学園を同程度の時期に整備する一方で第四学園を後年とするのは、3 学園を同時に整備すると費用や人手が一時期に集中し、かえって計画全体の停滞を招く可能性があるためです。

(6) ②柔軟な見直しと長期的な基本方針へのご意見

- ・ 資料では段階的な整備が示されていますが、全ての学園が完成するまでには非常に長い期間がかかる可能性があります。その間に出生数や人口構成がさらに変化することも考えられます。計画策定後も定期的に検証を行い、必要に応じて柔軟に見直しを行う仕組みを明確にしていきたいです。
- ・ 今現在の状況で須坂市全体の構想を決めてしまって、身動きとれなくなってしまうのではなく、最低のラインを決めていくことはできないかと思います。
- ・ 第四学園については、この案だと開校が 20 年後くらいになり、その頃に高甫小の規模が維持できるのかということも気にかかります。
- ・ P 5 学園の校舎開設までのロードマップにより計算すると、第四学園の校舎開設まで今後 23 年から 26 年かかるという。世の中も市民の考えも随分と変わっていくのではないかな。市の財政事情もどうなることやら。こんな先まで縛ってしまうのはいかがなものか。
- ・ 第四学園に開校するまで 20 年くらいかかりますが、その時の状況を今から見通せるのでしょうか。
- ・ 第四学園の校舎開設が第一学園構想だったのに最後になりました。小中一貫型学校とかどこに小学校を作るのですか。暴れ川の百々川があるのに墨坂中学の近くに場所などありますか。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。今後の児童生徒数の変化・社会状況の変化に応じて基本方針を検証し、必要があれば柔軟に見直すことを基本方針に明記します。基本方針は大きな方向性を示すものであり、具体的な計画は保護者・地域・学校・子ども達に参加していただき、一緒に進めていきます。

第四学園については、第二・三学園の校舎開設後に取り組む構想であり、その時点での状況に応じて柔軟に対応していきます。20 年以上先の計画を今から固定するものではありません。第四学園の校舎設置場所については、現時点では具体的な場所を決定しておらず、地形等の条件も含め、その準備の中で地域・保護者の皆様と一緒に検討していきます。

(6) ③ 校舎設置場所・整備方針の早期提示に関するご意見

- ・ 5 ページ、第一学園は東中校舎を活用することとなっていますが、それ以外はどのようなのでしょうか？既存校を活用するのか、土地の取得から新規で行うかなど基本的な方針を示してほしい。
- ・ 校舎設置場所の早期提示について学園構想を検討する上で、校舎の設置場所は住民にとって最も関心の高い事項の一つです。通学距離や安全対策、地域への影響などを検討するためにも、学園校舎の設置場所や整備方針について早期に提示していただきたいと考えます。
- ・ 第一学園も枠だけ示したに過ぎません。中身・計画が何も示されていない。これから考えますでは、判断しようがありません？
- ・ 今回の構想については、具体的なハード面、建設費など全くない。構想だけが先行しているように思います。
- ・ P5、大まかな案で、具体的に、どうするのか、決めていず、意見が出しにくい。(児童館、学級人数、バス通学、費用など児童が遠い距離になるなど)

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園は東中校舎を活用します。第二・三・四学園の校舎設置場所については、現時点では具体的な場所を決定しておらず、今後の検討課題としています。基本方針策定後に、地域・保護者の皆様からもご意見をいただきながら検討したいと考えています。第一学園について「枠だけで中身が示されていない」というご指摘ですが、基本方針を基に具体的な検討項目や検討時期などを整理して、皆様と一緒に考えて決めていきたいと思っています。

(6) ④ 保育園・幼保との連携に関するご意見

- ・ 園小連携による非認知能力とありますが、現在保育園は各小学校の近くに建てられており、中学の近くにはない。学園構想を進めるにあたり保育園もすべて中学近傍に建て替える予定はあるのか？その辺も全く議論がなされていないと聞いている。
- ・ 幼・保育園について、わずかに触れられているが、学園構想の中での位置づけや役割などが具体になっていない(幼小の立場、立地場所、保育的要素と地域)ので説明してほしい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。幼稚園・保育園・認定こども園との連携については、12年間を見通した成長を支えるという須坂学園構想の方向性と重なるものであり、引き続き検討し、実践していきます。学園構想の中では、園との連携のあり方として位置づけていますが、園自体のあり方については、私立園を含めた議論が必要だと考えています。

6. 学校生活・通学・運営について（P6 関連）

（1）通学距離・安全確保・スクールバスに関するご意見

- ・ いろんなエリアの子が今の学区エリアを超えて登下校することになると思います。登下校の安全面の確保にも気を配ってもらえると保護者としてはありがたいです。
- ・ P 6 の下段に記載されてましたが、通学距離や環境の整備が重要だと思います。今迄はほぼ水平移動で通学が出来ていた地域が、登坂や下りが続く事で学童の負担が大きく成ります。夏は猛暑、冬は雪深い中を通学しなければならない。スクールバスの完備や歩道の整備、信号機の増設や親御さんの送迎負担、それらによる渋滞等予想される事案を広く対処出来る体力が有るのか？を含めて「学童最優先」で物事を進めて欲しいです。
- ・ 放課後の学童保育等はどうなるのでしょうか？
- ・ 子どもたちの通学に関する危惧。本当に小学校 1 年生からの遠距離通学が大丈夫なのか？責任ある対応ができるのか？しっかり示していただきたい。保護者達は納得しているのか。
- ・ スクールバス導入の検討について記載されていますが、対象となる地域や運行ルート、運行本数、乗車時間の目安、保護者負担の有無などが示されていません。特に冬季の積雪時や悪天候時の対応についても不安があります。学園ごとの想定通学時間やスクールバス計画案を早い段階で示していただきたいです。
- ・ 豊丘小が仁礼小と合併する場合スクールバスの有無についても教えてください。夏は朝から暑いですし、熊のこともありますので検討されてなければ、こちらも検討ください。
- ・ スクールバスの検討とも書いてありますが、片道 4 キロや 6 キロとなると、使えない家庭が多く、子どもや親の負担しか残りません。
- ・ 希望する人は誰でも利用できるバスの整備と利用料の負担をして欲しい（公費がよい）。
- ・ スクールバス導入による安全・安心な通学環境の確保、Q&A で「必要に応じて検討」では踏み込みが足りないように思います。交通ルールも変えていくぐらいの、県のおピニオンリーダーになって頂きたいです。
- ・ 朝夕にスクールバスを走らせ、日中は高齢者等向け循環バスとして活用 運転手は市役所正社員として採用する。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。通学については、子どもたちの安全と負担軽減を最優先に考えていきます。通学距離が遠くなり通学時間が長くなる場合は、公費によるスクールバスの導入を検討します。文部科学省の考え方では、徒歩通学の目安を小学生おおむね 4 km 以内、中学生おおむね 6 km 以内としておりますが、他自治体の事例も参考にしながら検討します。スクールバスの導入・運用については、校舎開設のおよそ 2 年前までに運行地域・時間・バス停の場所等について保護者・地域・学校と検討しながら決定していきます。

また、通学での利用に加え、総合的な学習の時間や地域学習等の教育活動での活用や、高齢者向け循環バスとの兼用・運転手の採用方法等については、市長部局と調整して検討していきます。歩道整備等の道路環境についても、市長部局と連携して取り組んでいきます。

（2）児童クラブ・児童センターに関するご意見

- ・ 児童センターも老朽化している・歩いて通うには距離があるので、学校の敷地内にあたらしく建

物を建ててもらえると大変有り難いです。

- ・児童クラブは学校から距離が離れることになると思いますが、場所は従来通りでしょうか？
- ・児童クラブを利用するお子さんも多いと思うので、ぜひ、児童クラブの整備も同時に進めていただけるとありがたいと思います。
- ・放課後の学童保育等はどうなるのでしょうか？

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。児童クラブ・児童センター等の放課後の子ども達の居場所については、これから設置する準備委員会の中で通学方法の検討とあわせて、具体的に検討していきます。子どもたちが安全・安心に過ごせるよう、開校時に空白が生じないように準備を進めていきます。

(3) 校舎・施設・環境整備に関するご意見

- ・須坂市の財政状況が厳しいことは理解していますが、学園構想のイメージにあった設計の新校舎を検討いただきたい。
- ・全国に自慢できる学校であってほしい。25人学級の実現。東中学校校舎内に農業体験ができるような十分なスペースの畑が無いと思います。地域の方の協力を得て畑の一部を借用するなど協力していただけると良いかと思います。
- ・6ページの疑問2 学校生活について。既に検討されていると思いますが小学1年生と中学生のトイレの手洗い場の高さなど、小学校低学年に合わせた高さにしていただきたいです。また、保健室のベッドの数、感染症対策や体の成長の差異への配慮のため部屋の仕切りなど空間の確保、特別支援学級への安全対策、相談室の確保、給食のコンテナ室までの動線の安全性など実際の教室予想図などの図面を見てみたいです。
- ・今の東中学校の校舎を利用して、小学校1年生から中学校3年生までが過ごすことになる第一学園ですが、現状では、9つの学年の児童生徒と教員が過ごせるだけの校舎内の環境があるのか不安になります。
- ・誰でもトイレ、身障者も入れるトイレ等ユニバーサルデザインを導入して欲しい／長野市共和小学校、桜ヶ丘中学校の校舎の雰囲気がとても良かった。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。校舎開設にあたり、協働的な学びができるように学びやすい環境の整備を考えています。小学生と中学生では体の大きさが違うため、廊下・階段・遊び場等を安全に使えるよう検討する必要があります。ユニバーサルデザインの導入や、低学年に合わせた手洗い場の高さ・保健室・特別支援学級・相談室等についても、準備委員会で検討していきます。

(4) 空き校舎の活用・不登校の居場所に関するご意見

- ・【空き校舎の将来的な活用】フリースクール、中間教室としての利用など、不登校児童、生徒への配慮ができる施設として利用
- ・「各学園への校内教育支援センター（フレンドリールーム）の設置」という方針に強く賛同します。

しかし、新しい学園（第一学園）の開校までにはまだ6から7年もの期間があり、現在学校に行きづらさを抱えている子どもたちやその保護者は、毎日の通学や居場所の確保に今まさに困窮しています。つきましては、学園の完全開校を待つのではなく、統合の準備期間（プレ期間）として、現在ある仁礼小学校や東中学校の空き教室などを活用し、フレンドリールームのような「校内別室登校の居場所」を先行して試験的に設置・運営していただけないでしょうか。

- ・空き校舎の一部を使用するなどして、学びの多様化が実現できるように、いくつも居場所が作れたら良いのではないかと思います。そして、そこに通学する子も出席扱いにする仕組みが必要だと思います（信州親子塾のようなフリースクールの認定制度等導入）

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。各学園に小学生から中学生が利用できる校内教育支援センターを設置し、不登校傾向の子どもへの個に応じた支援を行います。また、第一学園にもフレンドリールームを設置したいと考えています。空き校舎の活用については市長部局と連携し地域の皆さんと一緒に考えていきます。

（5）教職員配置・養護教諭・事務職員に関するご意見

- ・運営に関しては、小学校と中学校は教育課程が違い、なおかつ小規模特認校となれば事務処理量も増えることが見込まれるので学校事務職員と行事引率で不在となることがないように養護教諭の複数配置を強くお願いします。学校を中から支えていく職員が苦しむことがないように、配慮いただきたくお願いします。
- ・地域住民とも連携し、教科によっては外部講師を導入し教員の方の負担を減らすこともできると思います。
- ・現在の小規模な体制では一人の教員が多くの校務を担う負担がありますが、統合により教員同士が協力して授業準備を進められる体制が整えば、指導の質の向上が期待できます。
- ・須坂市学園構想により、義務教育学校や小中一貫型学校として9年間を見通した教職員組織が整備されれば、教職員数の確保や校務分掌の平準化が図られ、教員一人一人の負担軽減につながることを期待されます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小中一貫教育では教員同士が協力して授業づくりや教材研究を進めることができ、小規模校で課題となっている一人の教員が多くの仕事を担当しなければならない状況の改善が期待できます。義務教育学校の場合は、複数の養護教諭・学校事務職員の配置が制度上可能ですが、県教委とも調整する必要があります。教職員のメンタルヘルスの充実についても、先生たちが元気に子どもと向き合える環境づくりの観点から重要だと考えています。

（6）部活動・土曜授業・PTA 等に関するご意見

- ・【部活動】4年生以降、希望者は体験、活動に参加できるような仕組みを検討してほしい。
- ・土曜日授業してよいです。半日のみ(行事遠足、運動会、音楽会、入学と卒業式等)(第二、第四休み)プール廃止してよいです。PTA と育成会廃止してもよいです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。部活動については、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しめる環境を築くとともに、教員の負担軽減を進めることを目的に、地域クラブ活動への移行を進めています。部活動の早期体験、土曜授業・PTA等の運営に関する事項は、ご意見として今後設置する準備委員会で協議したいと思います。

(7) 運営面（保健室・図書館等）のメリットに関するご意見

- ・小中一貫教育について、授業（教育課程）に関することや児童生徒の成長過程や対応などはよく理解できましたが、保健室や図書館教育、施設設備面などの事務的な分野についての視点からどのようなメリットがあるか深めて示していただけるとさらに希望が広がると、思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。基本方針は大きな方向性を示すものですので、保健室や図書館、施設整備等の運営面は今後の具体的な検討の中でお示ししていきたいと考えています。

7. 財政計画・予算について

(1) 予算・財源の提示に関するご意見

- ・P6において「無理のない持続可能な計画」と記載されているが、その根拠となる整備内容と事業費の見通し、財源計画および活用を想定している補助制度等について、可能な範囲で示していただきたい。
- ・【財政計画について】学園構想は非常に大規模かつ長期間にわたる事業だと思います。しかし、現時点では総事業費や財源、将来的な維持管理費などが十分に示されていません。学園ごとの整備費用、国や県の補助金活用予定、市の負担額、将来的な維持費について公表していただきたいです。
- ・「学園構想」を進めるにあたり、校舎新設やスクールバス運用などの予算が一つも提示されていないので市民は判断できないものと思われます。
- ・この計画には、予算が全く示されていません。本当にやる気なのか、と思ってしまいます。
- ・学園構想の予算がわかりません。今年から市民の経費が削減され、支障が出ています。このような中で予算を示さないのは無責任だと思います。少なくとも第一学園については示すべきだと思います。
- ・財政的な面での説明がほしい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。具体的な整備内容・事業費の見通し・財源計画・活用を想定している補助制度等については、基本方針策定後にそれぞれ具体的な検討を進め、順次お示ししていきます。現在、市内11の小学校の校舎は建てられてから40年以上が経過しており、校舎の更新時期が近付いています。また、校舎が建てられた頃の児童生徒数は約7,000人でしたが現在はその半分以下です。現状を維持し続けることにも多大なコストがかかることもご理解いただければと思います。

(2) 財政を理由とした説明・コスト比較 教育予算増額に関するご意見

- ・中学校、小学校の再編を財政上の理由として提案することはできないのでしょうか。状況により教科担任が全教科に配置できない中学校は生徒や保護者が納得できるものではないと思います。学校の建物の維持、光熱費、教材に関わる予算は小さな学校でもそれなりに必要です。須坂市は、人口増・税収増の市ではないのですから、生徒・児童数の減少の見通し及び財政面から学校の統廃合の必要性を具体的に訴えてもいいのではないかと思います。
- ・5ページ、第一学園（東中）を残す目的を明確に示してほしい。また、例えば第一学園の運営費が、生徒数が少ないことで他の学園に対して割高になるようなことはないでしょうか？もしそのようなことがあれば不公平感が生じるのではないのでしょうか。
- ・少子化に伴い、現在の学校数を維持管理する予算的な問題はあるかと思います。今の状態を維持していくにもコストがかかることは理解します。
- ・国の財政面からの学制改革に盲従するのではなく、教育予算の増額こそ強力に要求すべきと考えます。教育に金をかけようとしないのは亡国の道です。
- ・子どもは国の宝だと本当に思っているので、教育にはたくさんの予算や人を振り分けていただきたいと強く願っています。

- ・教育予算は市予算の 30% くらいかける。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は、小中一貫教育とよりよい教育環境の充実を第一の目的としており、財政面のみを理由とした再編ではありません。一方で、小規模校でも維持管理・光熱費・教材費等は相応にかかることから、一定規模の学校とすることで教育資源を集中でき、専門的な学びの充実にもつながると考えています。

子ども達のために、よりよい教育環境を整えることは市教育委員会の責務であり、必要な予算の確保に向けて市長部局と連携し、限られた財源の中ではありますが、これからの時代にふさわしい学びの場を実現したいと考えています。

8. 地域コミュニティ・学校と地域について

(1) 学校再編による地域への影響に関するご意見

- ・学校統合後の地域コミュニティについて、学校は教育施設であるだけでなく、地域活動や防災拠点としても大きな役割を担っています。学校がなくなる地域では、若い世代の定住や地域活動への影響も懸念されます。閉校となる学校施設の活用方針や、地域との関わりをどのように維持していくのかについて、具体的な方向性を示していただきたいです。
- ・地域に学校がなくなることによって不安になる地域住民の方がいらっしゃるのも十分理解出来ますが、学校は本来義務教育のための施設であり、子どもの学習の場としての機能を高めていくことを第一に考えることが必要ではないでしょうか。
- ・学校が無くなる地域の住民として、地域コミュニティーの核であった学校が無くなることは、この地域のアイデンティティーを過小評価されたかの感想を突き付けられた思いがある。願わくば、学校が消滅する地域の住民として、須坂市内のすべての学校の名前を、「地域名を冠した校名」を廃棄し、新生の学校名にして、全市民による「苦悩の痛み分け」を背負ってほしい。
- ・地域と学校の関係が失なわれる。小学校のない所に引っ越してくる若者世代はいないのでは……。
- ・明治以来、学校を作るのは地域を作るのと一体でした。人口減少時代になるから学校が地域からなくなっても仕方がないでは済まない問題です。地域を活性化してそこに居住する住民や子供たちの豊かな生活を保障するためにも教育委員会は知恵を絞るべきではないでしょうか。
- ・地域での雑談の中では地元の学校はどうなるんだ、子どもの声が聞こえなくなるなどの心配の声が多い。
- ・地域に学校がなくなると同時に地域のよさがなくなってしまいます。須坂市がどんどん寂しくなります。
- ・特に、豊丘・仁礼地域は、その立地から、今後戸数の減少率が他の地域より高く推移することが見込まれます。今後の街づくりの方針について、具体的に示していただきたいと思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。学校が再編成される地域の皆様の思いは、これまでの説明会や意見交換会の場でたくさんいただきました。

学園構想では、小中一貫教育やコミュニティ・スクールを進めることで、これまで以上に地域の皆さんや保護者の意見を学校運営に取り入れていきたいと考えています。また、地域では、これまで学校が中心だった地域活動を、公民館などを中心とした活動へ広げていくことも考えられます。小学校単位の組織・活動についても、市長部局と連携して地域の皆様と検討していく必要があると考えています。

(2) 跡地・施設管理に関するご意見

- ・旭ヶ丘小学校の将来像について地域住民にとっては学園の名称や組織形態以上に、旭ヶ丘小学校が今後どのようなになるのかが大きな関心事です。学校の存続、施設活用、地域拠点としての役割などについて、市としての基本的な方向性を早期に示していただきたいと考えます。既存校舎の活用と管理について、特に施設管理や維持運営について地域へ協力を求める可能性がある場合には、市の責任範囲や支援内容を含めた基本方針を明確に示していただきたいと考えます。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。再編成された後の校舎や校庭・体育館を今後どのように活用するかについては、市長部局と連携し地域の皆様と一緒に考えていきます。施設管理や維持運営について地域へ協力を求める場合には、市の責任範囲や支援内容を含めた基本的な考えを示す必要があると考えています。

(3) 地域との協議に関するご意見

- ・地域住民との継続的な協議について 学園構想は今後の地域の姿にも大きな影響を及ぼす重要な計画です。そのため、保護者だけでなく、自治会、区、公民分館、育成会など地域団体との意見交換の場を継続的に設け、地域の意見を計画へ反映していただくことを要望します。
- ・協働、「学校を開き」というが、地域と協働できることはどんなことか、学校が自分でやらなければならないことはなにか、その境界がよく見えない。これは、各校の学校運営委員会等で、しっかりと議論すべき内容だと思う。「これからの時代に生きる子どものための地域と学校との関係」を地域と学校がじっくり話し合っていて欲しい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。準備委員会やコミュニティ・スクールの制度を活用しながら、これまで以上に地域の皆さんや保護者の意見を学校運営に取り入れていきます。保護者だけでなく、自治会・区・公民分館・育成会など地域団体との意見交換の場を設けて、地域の意見を反映していきたいと考えています。

(4) 人口増施策との一体的検討に関するご意見

- ・第一学園の児童生徒数を増やすために、須坂市総出で他の課とも協力して、無理だろうと思うようなアイデアでも人口が増える対策を考えていくことが大切だと思います。例えば、東中学区内に分譲住宅を造り、格安で売却もしくは賃対で斡旋する。いろいろな課とコラボして夢のある学校ができるといいと思います。
- ・全体として、須坂市の人口増のための政策などが示されておらず、人口増のための政策を抱き合わせで、検討されることが望ましいです。
- ・須坂市は、東中通学域以外は、人口減少に格差が生じにくい地理的条件があります。東中通学域の人口減少については、村石町が人口増の状況にあるように、市の住宅政策なども合わせて考えられても良いのでは。
- ・須坂でも周辺部の人口が減少するのは住宅政策・産業政策等政治の問題です。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。全国的に少子化が進む中で、一時的な人口増対策が成功したとしても長続きしない可能性があると考えています。これまでも学区内の大規模な宅地造成により、児童生徒が急激に増加した学校がありましたが、その後、急激に児童生徒が減少しています。長期的には少子化が進むことを前提として、基本方針を策定したいと考えています。

9. 変更経緯の説明要望について

- ・豊丘小学校 PTA です。今回どこがどのように変更になったかを、改めて詳しく説明していただく機会を設けていただければと思います。変更の経緯や理由を特にお願ひします。豊丘小学校が振り回されているとみんなが感じないようにフォローをお願いします。
- ・最初に、なぜこの修正案になったのか、丁寧な説明をしてほしいです。特に、豊丘小や高甫小の保護者には、様々な意見があったので、全員が納得できるような説明が必要です。
- ・5ページ、第一学園が施設分離から一体型に変更となっておりますが、開設スケジュールに変更はないのでしょうか？過去の Q&A には早期に開設するために分離型を選択したと認識しております。
- ・学園構想の基本方針が変更になっているが、その理由がよく分かりません。
- ・最初の案では豊丘小が他の小学校と一緒に……私としては、最初の構想の案の考え方に賛成でした。なぜ、修正になったかの経過を知りたい。
- ・前回の方針案とは大きく変更になった第一学園の対象地域の方には、変更の経緯や小規模特認校についての説明会の開催が必要ではないかと考えます。
- ・6月1日発表の修正案について 今回の「学園構想・修正」案を発表するにあたっては、どのような議論、経緯をたどったのか説明してほしい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。今回の修正案は、地域説明会・意見交換会・市民アンケート等でいただいたご意見を踏まえて総合的に検討した結果です。具体的には、東三校（豊丘小・仁礼小・東中）のこれまでの交流実績と地域のつながりを大切にしたこと、高甫地区の歴史的経緯を踏まえた通学区の見直し、施設分離型から施設一体型への変更による教育環境の充実を総合的に判断しました。施設一体型への変更後も、開設スケジュールに大きな変更はなく、準備が整えば予定より早く開設できると考えています。第一学園に関係する保護者・地域の皆様には、変更の経緯や理由について説明してまいります。

10. その他・個別の意見について

(1) 賛成・肯定的なご意見

- ・児童生徒の減少が進んでいく中で、学校を統合する事業は必要なことだと感じます。構想を考えてくださりありがとうございます。
- ・基本方針案には概ね賛成です。が、各学校の伝統や校名、校歌など、ぜひ受け継いだ形での再構想をお願いいたします。先人の想いや願いに触れ、尊重することも学生の情緒に良い影響を与えると思います。
- ・須坂学園構想・基本方針案には大賛成です。
- ・現在、子どもの数が減っており、全国的に学校の統廃合が進んでいます。そんな中、須坂市では市全体の学校を考えての学園構想を練っている点に共感しています。新しいことを行うには様々な困難もあると思いますが、同時に今までではできなかった学習の可能性が数多くあり魅力を感じます。
- ・1 ページについて (1) 基本方針には賛成です。
- ・教育専門家の皆様が長年の知見と経験を踏まえ、慎重な議論のもとに策定された基本方針（案）の方向性に賛同いたします。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。2020 年度からの長期にわたる議論の積み重ねの上に策定した須坂学園構想を、子どもたちのために着実に進めていきます。各学校の伝統・校名・校歌等については、新しく設置する準備委員会の部会で話し合い、検討していく予定です。

(2) 豊丘住民の賛否・子育て世帯との温度差に関するご意見

- ・反対している豊丘住民はみんな子育て世帯では全くなく、そんなのいいから早く確定してくれと嫌気がさしている子育て世帯は多いです。
- ・反対意見の一部だけ聞き入れるのではなく、賛成の人の意見も聴いてほしいです。
- ・地域の声は大事だが、地域のエゴに左右されずに大局的に須坂市がめざす新しい学校を早急に進めて行ってほしい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。さまざまな立場からのご意見があることを認識しています。市教育委員会は、賛成・反対を含むすべての立場の方のご意見を参考にしながら、子どもの学びの保障を最優先に、スピード感をもって取り組んでいきます。

(3) 学校選択制に関するご意見

- ・どこの学校に行くかの選択肢を残して下さい。お願いします。
- ・私個人としては須坂小を希望していますので小学校の選択制の採用を検討ください。
- ・1 豊丘小が須坂小と合併する 2 豊丘小は、須坂小か仁礼小の選択制にしてほしいと思います。
- ・第一学園を小規模校にし、市内のどこからでも希望すれば通えるとありますが、この場合、仁礼豊丘の児童は希望すれば第二学園などに通えるのでしょうか？希望すれば第一学園に入れるので

あれば、第一学園の校区の児童にも他学園に通える選択肢がなければ不公平だと思います。ぜひ選択できるようにお願いします。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。第一学園には小規模特認校制度を導入し、市内在住であれば学区外からでも通学できる制度を設けます。一方、第一学園の通学区域の児童生徒が、他の学園を選択する制度は、現行の通学区域制度の中では設けていません。第一学園では、小規模校でも多様な価値観や考え方に出会える環境を実現するために、小規模特認校制度を導入したいと考えています。

(4) 先行事例の検証・データ提示に関するご意見

- ・すでに小中一貫校として運用が行われている信濃町の小中一貫校に関しても、知り合いの子供が通っていたのですが、授業時間が小中学校で合わない点や、行事を一緒に行うことで、それぞれにとって中途半端な行事となってしまうなどの問題が噴出している。これらすでに噴出している小中一貫校の問題はあらかじめ解決する必要があるのではないのでしょうか？
- ・学園構想導入の必要性を客観的データで示すこと。制度導入の背景となる現状や将来予測、そして導入後の期待される効果を、出典を明示した客観的な数値やデータに基づいて丁寧に示すことが重要であると考えます。小中一貫教育導入自治体の効果検証、先行自治体における成果や課題を整理し、分かりやすく示すことが望ましいと考えます。
- ・先行事例に対する検証が不十分です。市長が「小中一貫教育で大きな学校をやっている市はみんなうまくいっている」というのはあまりにも乱暴です。
- ・既に義務教育学校として開校している学校に視察に行かせてもらえたら、今の東中の校舎を活かしてどのように工夫できるか環境面や施設面から具体的に見えてくるので、学校教育課のみなさんと協力してよりよく考えていけるとと思います。市民のみなさんにも公募で、視察に行きたい人を募るのもいいかもしれません。
- ・視察した信濃小中学校では不登校が増えているそうです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。先行自治体の成果・課題についても、引き続き情報収集・検証を行い、市民の皆様にわかりやすくお伝えしていきます。授業時間の違い等の課題については、先進校での工夫を参考にしながら、須坂市の実情に合った対応を検討していきます。

(5) 現状での小中連携の可能性（統合不要論）に関するご意見

- ・同資料の6ページには、学園の校舎解説時期の違いで小中一貫教育の内容に差が出ないか？という問いに対し、市で共通に定める「小中一貫教育カリキュラムに基づき、中学校区の小中学校で連携して教育を行う」とありますが、であれば市が問題として挙げている「現在の小中学校の連携が取れていないため、子供の成長を一貫してみることができない」という説明に対し、現状でもできるということを表していないのだろうか？
- ・第一学園の教育との整合性が失われないよう、校舎開設前から中学校区内で各学校が連携して小

中一貫教育を行うということは、「統廃合しなくても小中一貫教育ができる」と教育委員会自らが認めていることになりませんか？

それができるのならば、小中学校を一緒にする必要は無いと考えます。

- ・P6 学園の開設時期が異なることによっても教育内容に大きな差は出ないようにする理由として、市で共通に定める「小中一貫教育カリキュラム」と小・中の連携（教員も）を挙げているが、それは、現在の6-3制でもいいということではないのか。無理をして学園制にすることはしないのではないか。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。校舎開設前から中学校区の学校が連携して小中一貫教育に取り組むことと、学園の校舎を開設することは別の効果があります。学園の校舎を開設することで、日常的な異年齢交流・教科担任制のより充実した実施・校内教育支援センターの設置・教職員が9年間を通じて子どもを見守る体制の構築が、より効果的に実現できます。特に本市では一つの小学校から複数の中学校へ進学するケースが多く、連携の統一性を保つことが難しい状況があります。校舎開設前の連携は、開校後の一体的な教育をより円滑に進めるための準備段階として位置づけています。

(6) 教育の質・学力・学校経営に関するご意見

- ・須坂市の子供たちの学力の現状を、合理的に分析して、須坂の子供たちの学力は、指導要領の内容について、習得の状況はどうかを明らかにすべきです。全国学力検査（抽出学年）の結果は全県や全国レベルから見て、どのような状況か。分析して、その結果から、新構想の必要性を説くことが良いと思います。小中一貫教育というのは、内容が重複するものをひとまとめにしたり、内容によっては学年を分けたり、AIのような新しい分野を入れたりして、教育課程の内容を見直して、小中の流れを一貫することなのです。
- ・私の求めてきた教育は、「子どもの主体性、自主性を尊重した問題解決学習」です。今の案で、子どもの個性・自主性を生かした教育がなされているようには見えていません。
- ・「学力」とは「わかって、できて、説明できる、伝えて」いく学力でないとダメ。今ある学校で一人ひとりに手を入れて、各教科のおもしろさをつけることが大切だと思う。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。全国学力・学習状況調査の須坂市の状況は、教科専門の教員から成る分析委員会による分析結果を「広報すざか」「学校だより」で公表しています。須坂市の小中一貫教育では、「問い」から始まる学習・基礎基本の確実な習得・課題解決的学習・発展的学習という学びの4つの柱を設けています。具体的なカリキュラムについては、学識経験者をアドバイザーとした検討委員会や、これから設置する準備委員会の部会で現場の先生方の意見を大切にしながら作成していきます。子どもの主体性を育てることと、確かな学力の定着を図ることは相反するものではなく、両立をめざして取り組んでいきます。

(7) 子どもの声・当事者の参画に関するご意見

- ・つい大人だけで決めてしまいがちな内容も、ぜひ子どもの意見も反映させて欲しいです。大人が

子どもと関わる姿勢をアップデートし続けることが重要と感じます。

- ・高山中学校では毎年子ども議会を開き、自治体のすべての問題について、理事者と議論を重ねています。須坂でもすべての小中学校でこのような機会を作り、この問題について子供たちの声を聴くべきではないでしょうか。この問題では子どもの権利条約を文字通り実践すべきです。
- ・これからは、子どもたちにとってよりよい学校になるよう、保護者や地域、教職員、そして子どもたち自身も参加しながら具体的な学校づくりを進めていきたいです。
- ・多くの人が学校づくりに参画し、未来の子どもがよりよく成長できる環境になることを期待しています。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。基本方針の策定にあたっては、生徒会サミットや児童会との意見交換会など、子ども達にこの構想について考え、意見を出してもらう機会を設けてまいりました。今後も生徒会サミット等の機会を通じて、子ども達の声を継続して聞いていきます。

学園構想に関する最終的な判断は教育委員会が責任をもって行いますが、その過程で子どもたちの意見を丁寧に受け止めることが重要であると考えています。子どもの権利条約の精神を踏まえ、子ども達が自分たちの学校づくりに参画できる機会を積極的に設けてまいります。基本方針策定後は、準備委員会の部会等において、小中学生の代表の子ども達にも必要に応じて参加してもらい、子どもの目線での意見や提案を反映しながら、具体的な学校づくりを進めてまいります。

(8) 2つのテーマの切り分けに関するご意見

- ・異なる内容が一括して提案されたことについて 明らかに異なるテーマなので、両者を切り離し、小中一貫教育の導入の是非と、小学校・中学校の統廃合を、それぞれ別個に検討すべきものと考えます。まずは小中一貫教育についてのみフォーカスし、全市的な議論を行うべきかと思います。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は、9年間の学びをつなぐ小中一貫教育と、それを実現するための四つの学園（施設一体型の義務教育学校または施設隣接型小中一貫型学校）の整備を、一体のものとしてめざす構想です。今回6月にお示しした基本方針案は、昨年1月の基本方針案と、昨年4月の「須坂市がめざす小中一貫教育」リーフレットの内容を一つにまとめたものであり、両者は目的と手段の関係にあって、切り離せないものです。

(9) 須坂市オリジナルモデルに関するご意見

- ・学園構想は、須坂市だけでなく、長野県その他市町村や全国各地で推進されています。ということは、須坂市の実情に応じて考えられたものでなく、国の方針によるモデルを基本としたものと考えられます。須坂市の実情に応じたものを検討して須坂市のオリジナルのモデルを提案して下さい。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は、2020年度からの「学びのあり方検討会議」の提言と「須坂市小中学校適正規模等審議会」の答申を踏まえた須坂市独自の構想です。須坂市がめざす小中一貫教育は「つなぐ・のばす・いどむ」という須坂市独自のキーワードのもと、5つの特色（専門的な学び・連続性・ふるさとを生かした学習・多様性・協働）を定めており、須坂市の地域性・歴史・子どもたちの実情を踏まえた独自のモデルです。

(10) デメリット併記に関するご意見

- ・小中一貫教育の形態がもたらすデメリットについて 修正案では、メリットが強く打ち出されていますが、当然デメリットもあるでしょう。良い点も、悪い点も、なるべく多くを併せて示すべきものと思います。対応策も提案する必要があるでしょう。メリットの一方的なアピールは、正しい判断を狂わせることとなります。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。小中一貫教育のデメリットとして、①人間関係の固定化、②5・6年生のリーダー性育成機会の減少、③中学生の生活面の影響、④教室・運動場の広さの確保、⑤安全面への配慮、⑥授業時間の違いへの対応があることを認識しており、Q&Aにおいてそれぞれの対応策とともにお示ししています。また、小規模特認校制度のデメリットとして、通学の負担増加・地域の友達との関わりの減少・学校全体の児童生徒数の根本的解消にはなりにくい面があることも明示しています。

(11) まとめ・情報公開に関するご意見

- ・まとめとして、現在示されている内容が乏しく、賛否の判断が出来ません。市民全体に示す内容としては今回の内容でもよいかもしれませんが、意見を募集するのであればより詳細な計画を知ることが出来るよう対応していただきたいです。
- ・須坂市の子どもたちにとってより良い教育環境を整えるためにも、保護者や地域住民への丁寧な情報公開と説明を継続していただくことを希望します。
- ・学園構想の成否は施設整備ではなく、市民・保護者・地域が『なぜ必要なのか』を理解し共有できるかにかかっていると考えます。
- ・いろいろな問題がある中でも子供達は日々、勉強し成長していかなくてはならない毎日に、今から少しでもよりよい環境を作って頂きたいという事が願いです。何卒、子供達の成長に寄り添った構想案である事を願います。
- ・経営面から学校を考えるのではなく、子ども達が行きたくなる学校、地域の皆さんに見守られる学校であって欲しいです。
- ・お金の面だけでなく、「子どもたちが安心安全に暮らせる居場所としての学校」という位置づけで話し合いを進めて欲しいのが1番の願いです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。具体的な計画については、基本方針策定後に順次お示ししていきます。保護者や地域住民への丁寧な情報公開と説明を継続していきます。学園構

想の成否は施設整備ではなく、市民・保護者・地域が「なぜ必要なのか」を理解し共有できるかにかかっていると認識しており、引き続き丁寧な情報提供に努めていきます。子ども達が安心安全に学べる学校づくりを最優先に、取り組んでいきます。

(12) 構想の早期実現を望みつつ、開校までの居場所づくりを求めるご意見

- ・現在学校に行きづらさを抱えている子どもたちやその保護者は、毎日の通学や居場所の確保に今まさに困窮しています。自宅待機するか、職員室で見守る対応しか難しい状態です。また、完全な不登校でない限り、遠方の相森中学校を利用しようと思えません。送迎問題も考えると通うことが難しいので、せっかくの施設があってもあきらめざるを得ません。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。日々送迎や居場所の確保にご尽力されている状況を、切実なご意見として重く受け止めます。校内教育支援センターの設置は須坂学園構想の大切な柱であり、子どもたちが身近な地域で安心して過ごせる場を整えることを重視しています。学園の開校を待つ間においても、既存の小学校・中学校などの教育支援体制の中で、別室での居場所づくりや支援のあり方について何ができるかを、関係する学校とともに早急に検討してまいります。身近な地域での早期の環境改善というご趣旨を踏まえ、今まさに困っているお子さんへの対応を大切にしながら、構想を着実に進めたいと考えています。

(13) 構想の前提・進め方に関するご意見

- ・学校統廃合先ずありきの学園構想では、子ども・父母・住民の願いに応える教育はできないと考えますがいかがですか？小中学校の適正な規模・配置「学校数や学区の見直し」という学校再編と、「子どもの学びのあり方」を変え、その教育の充実を図ることとは、本来別次元の問題です。学校の規模と形態を変えれば、須坂市の目指す「自分らしく未来を拓いていく子ども」が育つという根拠はどこにあるのでしょうか？
- ・校舎(ハード)ができれば解決とするのはナンセンス。まずやることはソフトの面であり、いじめもクラス替えで解決を促すのもよいが、根本的ないじめ問題の解決には全くなりません。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。須坂学園構想は、学校統合をあらかじめ決めたうえで進めているものではありません。少子化が急速に進む中で、子ども達が多様な仲間と関わり、協働的な学び、小中が連携した指導など、学びの環境をどう整えるかという観点から検討してきたものです。ご指摘のとおり、学校の規模・形態を変えることそのものが目的ではなく、大切なのは学びの中身の充実です。そのため、校舎の整備を待たずに、カリキュラムの検討や学校間の交流など、今できるソフト面の取り組みを進めてまいります。いじめへの対応についても、クラス替えのみで解決するものではないと認識しており、9年間を見通して子どもを見守る体制づくりとあわせて、取り組んでまいります。

(14) 市民参画・熟議のプロセスに関するご意見

- ・須坂市では 20 年前、農業の基本計画を自主的に参加した 80 人の市民が担当課と共に 3 年にわたる視察・研究・議論して策定しました。須坂市の現在の農業はこの上にあるといっても過言ではありません。学園構想もそうあるべきだと思います。この問題では子どもの権利条約を文字通り実践すべきです。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。学園構想も、市教育委員会が一方的に決めるのではなく、保護者・地域・学校と一緒に考えながらつくっていくものと考えています。基本方針策定後も、準備委員会等を通じて、子ども達も含めた幅広い参画の機会を設け、対話を重ねながら進めてまいります。

(15) 教育の質や学校経営に関するご意見

- ・須坂市の子供たちの学力の現状を、合理的に分析して、須坂の子供たちの学力は、指導要領の内容について、習得の状況はどうなのかを明らかにすべきです。将来、須坂市を背負って立つ子供の成長を願って、学習や通学の姿がイメージできるような具体的な内容がほしいと思いました。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。長年にわたり須坂市をはじめ県内各地の教育に携わってこられたご経験に基づく、示唆に富むご提言として拝読しました。子ども達の学びの姿や通学の姿が具体的に思い描けるような内容をお示ししてほしいというご期待は、準備委員会に引き継ぎたいと思います。

(16) 今ある学校での指導充実を求めるご意見

- ・どの学園構想も大規模校化すると「学力」と「不登校」が良くなるのか、その根拠を示してもらいたい。本当に「学力」があがるのか。中学の担任になると通学させるため、各教科点数を出し、進学校選択させるのですが、なぜこの子が(生徒)できないか調べて見ると、学力が身につけていない。例えば方程式でなぜ移行すると十が一になるのか、一が十になるのか、証明できない。また分数にしろなぜ $1/2 + 1/3$ は足すことができないのか。半ばの意味、量としてわかってないから説明できない。計算はできる。こういう生徒がたくさんいることがわかりました。「学力」とは「わかって、できて、説明できる、伝えて」いく学力でないとダメ。今ある学校で一人ひとりに手を入れて、各教科のおもしろさをつけることが大切だと思う。

【市教委の考え方】

貴重なご意見ありがとうございます。一人ひとりの子どもがつまずきの背景まで含めて「わかり、できて、説明できる」学力を身につけることが大切であるというご指摘は、須坂学園構想がめざす学びの姿と重なるものであり、貴重なご意見として受け止めます。須坂学園構想は、学校規模を大きくすること自体で学力向上や不登校の減少を図るものではありません。少人数の学校では、特に高学年で各教科の専門性を生かした指導を行うための教員の確保が難しくなっており、5年生からの教科担任制の導入により、教科の見方・考え方を大切にし

た指導の充実をめざしています。あわせて、9年間を見通して子どもを見守る体制や、校内教育支援センターの設置により、一人ひとりに応じた支援を行っていきます。なお、文部科学省の「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」には、小中一貫教育を進めている学校でいじめ・不登校・暴力行為などが減少した例が紹介されています。今ある学校で一人ひとりに手をかける指導の大切さは変わらず重視しながら、そのための教育環境を整えることが須坂学園構想の趣旨です。